

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

MAGAZINE

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

折り紙の知的財産権に関する活動報告

A Report on the Intellectual Property Right on Origami

西川誠司

Nishikawa Seiji



折り図 Diagrams

ピースメーカー

Peacemaker

森末 圭

Morisue Kei

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

スピノサウルス

Spinosaurus

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

つまみおり Information

第1回九州コンベンション参加募集開始

The First Call for Registration for
the 1st Origami Tanteidan Kyushu Convention

通巻 126 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



ピースメーカー

Peacemaker

作:森末 圭(P.22)

by Morisue Kei (P.22)

■前号マガジンに引き続き、なにかと物議を醸しそうな題材をきっちり仕上げてくる森末氏。紙製であるといいど、前置きなしでコレを突きつけられたら結構怖い。「使い方を間違うと、お鍋頂戴になってしまうかも?」と思うほどの完成度・造形バランスになっています。

(解説:北條高史) Comments : Hojo Takashi

ORIGAMI
MAGAZINE
CONTENTS

折紙探偵団

No.126



Peacemaker: Morisue Kei

クローズアップ / Close-up

P.11 折り紙の知的財産権に関する活動報告

A Report on the Intellectual Property Right on Origami

西川誠司
Nishikawa Seiji

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 ピースメーカー

Peacemaker

森末 圭
Morisue Kei



P.33 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

スピノサウルス

Spinosaurus

川畑文昭
Kawahata Fumiaki

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 うず組みの世界

The Spiral Module Series

うず玉 2010

Whirling Ball 2010

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

バラ
Rose

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Orikata" Revisited

千羽鶴と桑名
Senbazuru and Kuwana City

岡村昌夫
Okamura Masao

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『折り紙読本 I』
"Origami Reader I"

羽鳥公士郎
Hatori Koshiro

P.18 気軽にはじめる 22.5 度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

分子の置き換え
Restructuring Molecules

小松英夫
Komatsu Hideo

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuso Tomoko

情報 / Information

P.34 日本折紙学会 21 期事業報告と 22 期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 21st Year and Prospects in the 22nd Year

P.38 つまみおり

Rabbit Ear

第1回折紙探偵団九州コンベンション参加募集開始
The First Call for Registration for the 1st Origami Tanteidan Kyushu Convention

第3回 うず玉2010

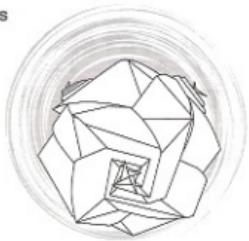
Whirling Ball 2010

©2010-2011 川崎敏和

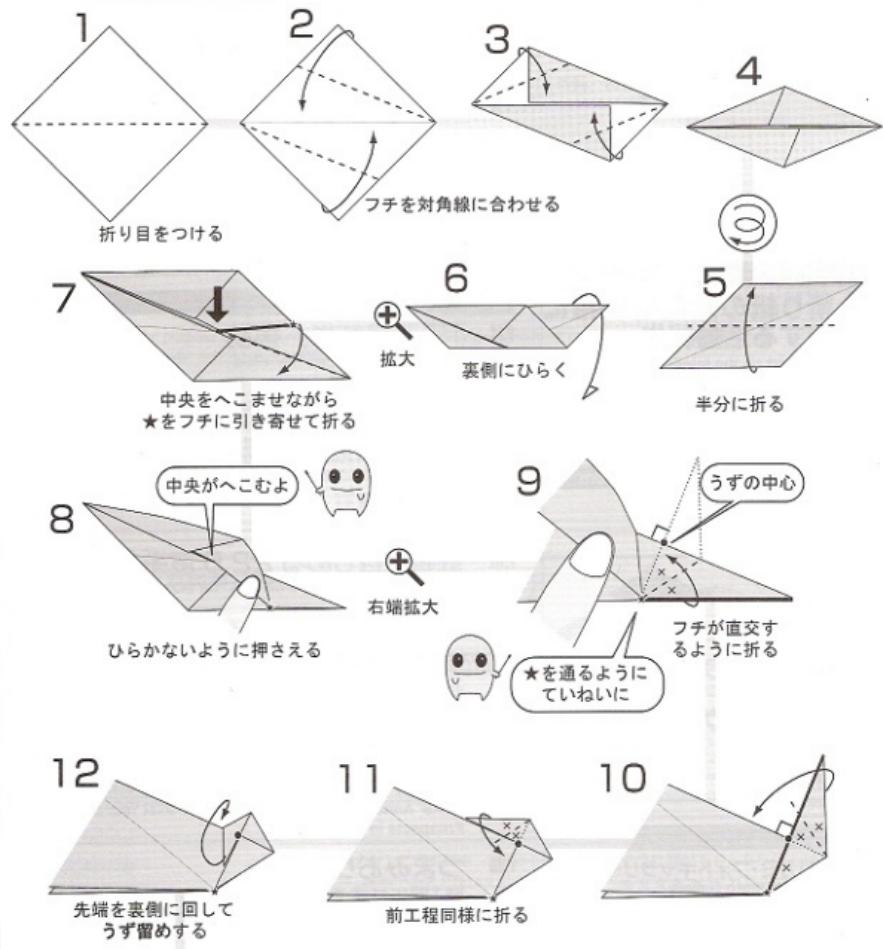
©2010-2011 KAWASAKI Toshikazu

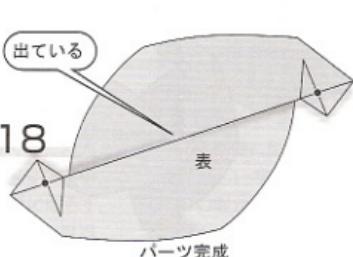
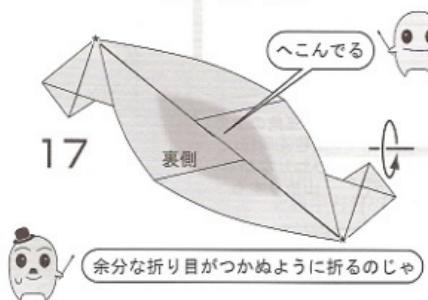
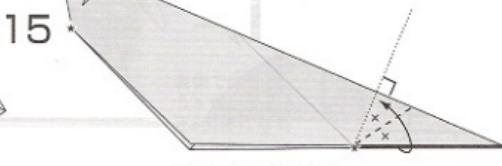
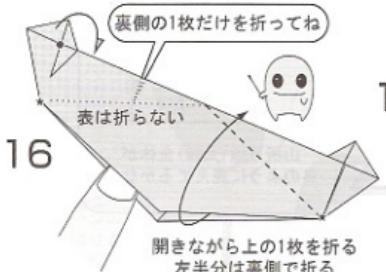
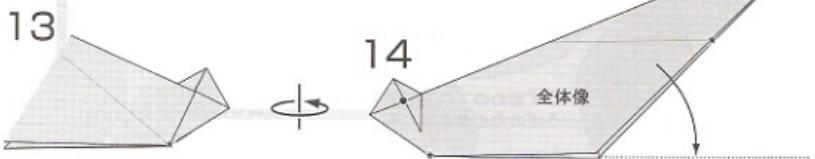
ふっくらとした曲面がこの作品の命です。

余計な折り目がつかないように折ってください。

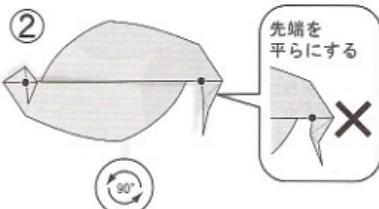
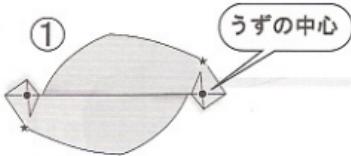


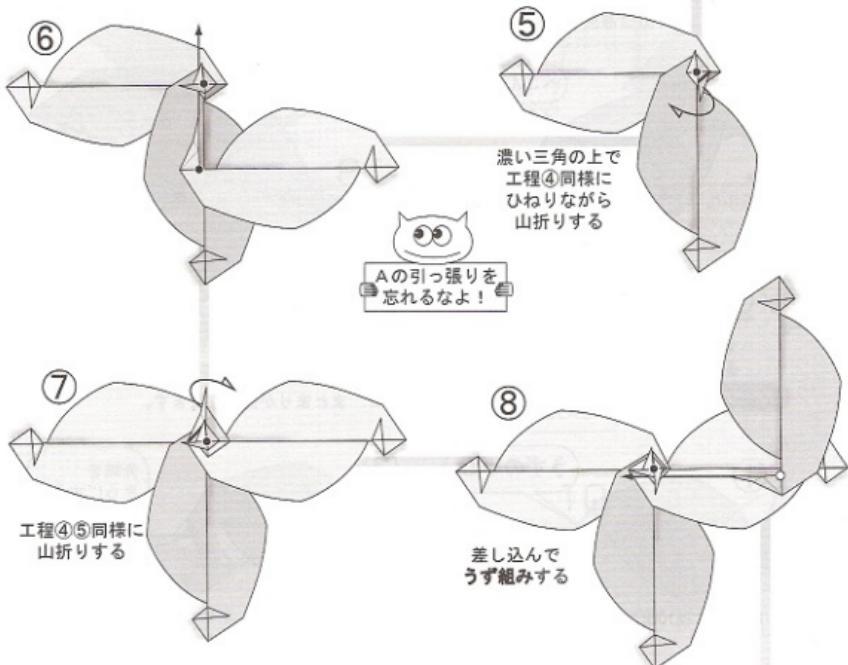
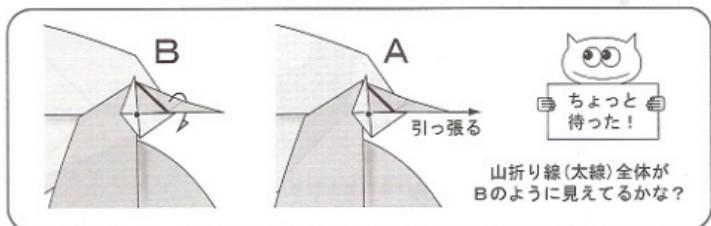
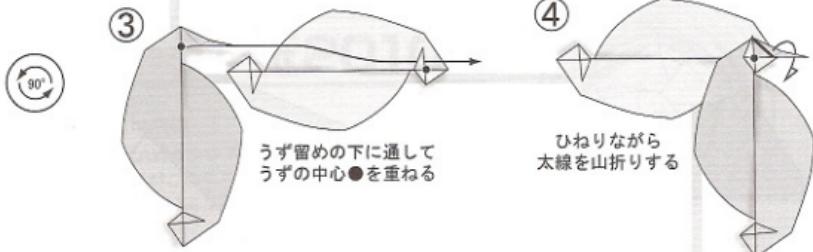
【パーツを12個折る】

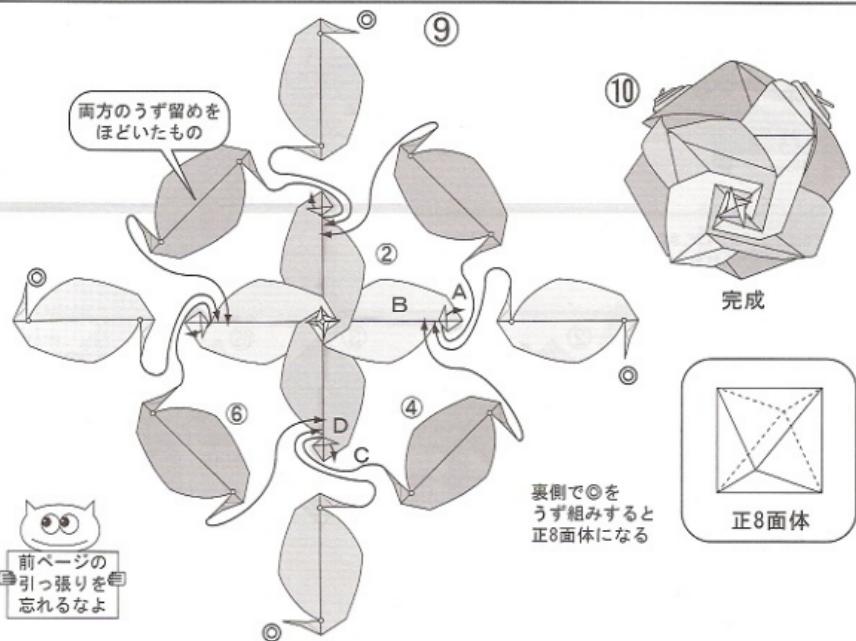




バーツを12個組む バーツ12個を正8面体に組むと、まとまりが良くなります。







折り紙の 周辺

布施知子 Fuse Tomoko

第46回
ミニチュア
Folding a
Miniature Model
Origami and
Its Neighbors

久しぶりにというか、初めてというか、15cm折り紙用紙を16に切った紙から蘭部タイプの30枚組のくす玉を作った。これらはミニチュアとも呼べないんだろうが、私としては十分小さいものだった。かわいらしい小さい玉。できた！と嬉しかった。正確に紙を切り、念入りに折り、なるべく穴の開かないように組む。むずかしさは楽しさへと味が変わる。すべての折り紙作

品に言えることだけれど、紙の厚さと質ができるほど大きく影響する。ミニチュア折り紙の名人級を何人か知っているが、たいへんな技術と集中力だと思う。折り紙に限らず、建築物や衣料などいろいろな世界でミニチュアに心を注ぐ人がいる所をみると、小さいものはかわいらしい、というだけでなく、技術の困難を克服することや、工夫することなど、はかり知れない魅力があるのだろう。紙のタッチも新しい感覚で、たまに違ったことをすると、なかなか面白い。

散歩の途上にイタリアングレーハウンドのミニチュアを飼っている家がある。こんな犬がいるのか、鄙には珍な、とびっくりした。細身で四肢が長く軽々とした動き。形

も動きもつる巻きバネのようだ。好みは別にして、めずらしいものを見ると脳髄に風が吹く。

長く厳しい寒さから抜けて久しぶりの暖かい日差しに表に誘い出されると、木々のあちこちからパンパンと乾いた大きな音がする。からみついているヤマツジの実がはじける音。山はにぎやかだ。小鳥も節回しあもしろく歌い出した。春がきた。季節が動いた。

園芸好きの知り合いにフジとハギの種を拾って送る約束がしてある。この人はカエデでもケヤキでも何でも種から育てるのが好き。育つ過程をほくほくと眺めるのだろう。楽しいだろうなあ。そうそう、ハギの種はミニミニの小豆のようです。

おりがみ 我楽多市

がらくたいち

Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

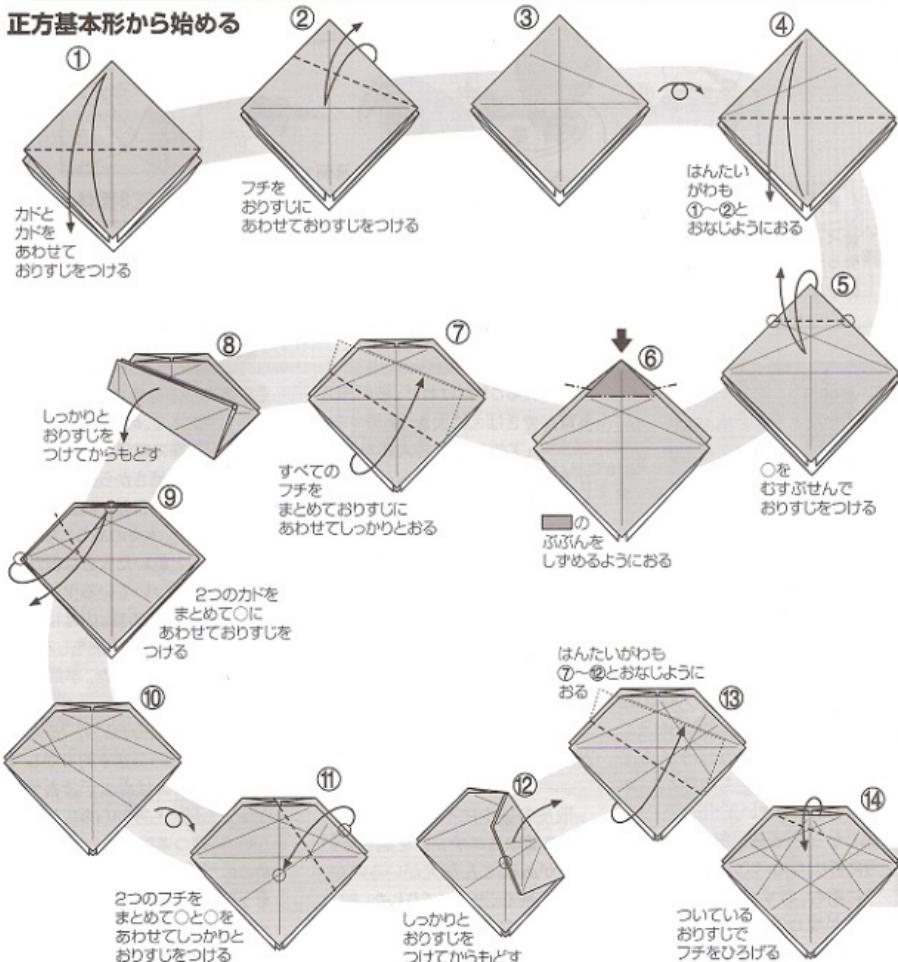
第47回 バラ

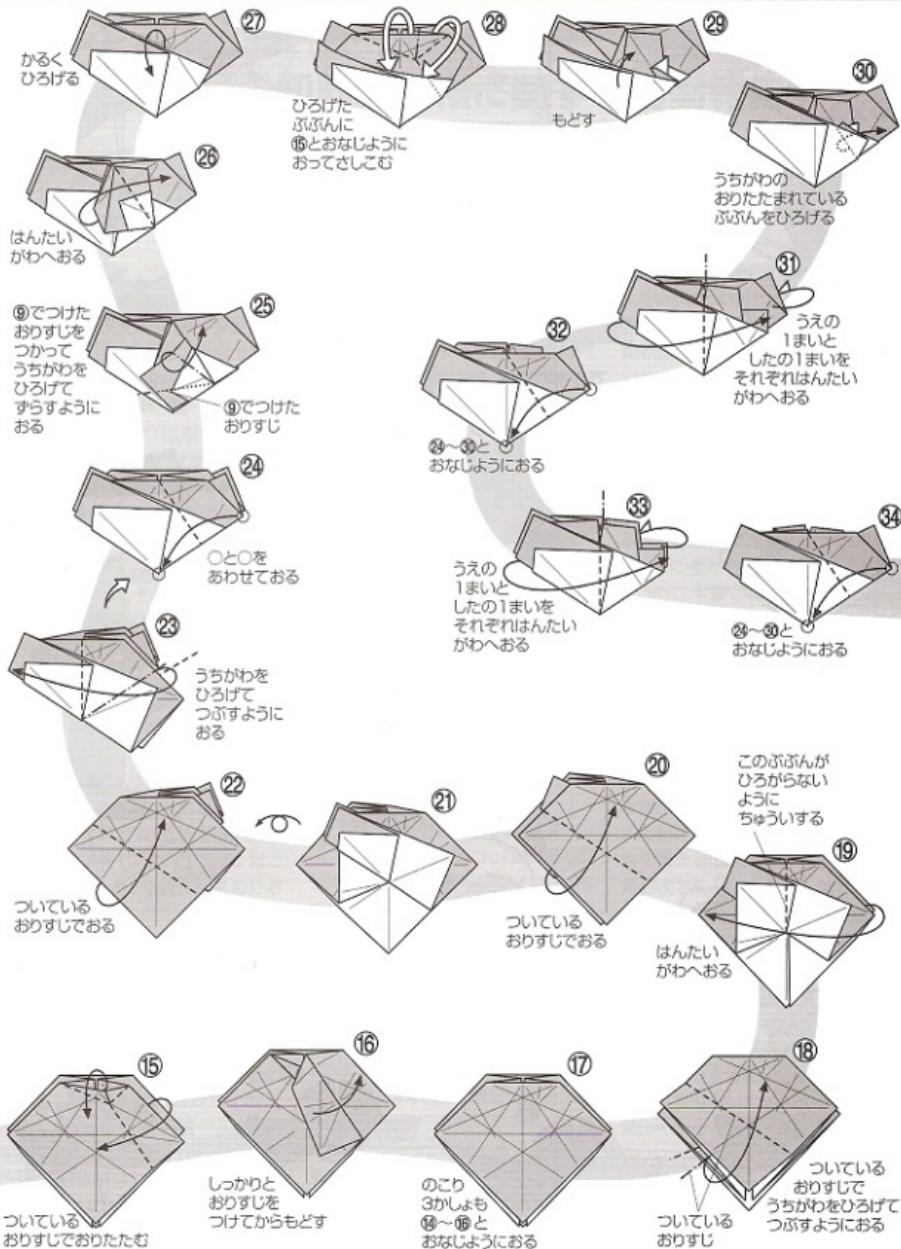
Rose

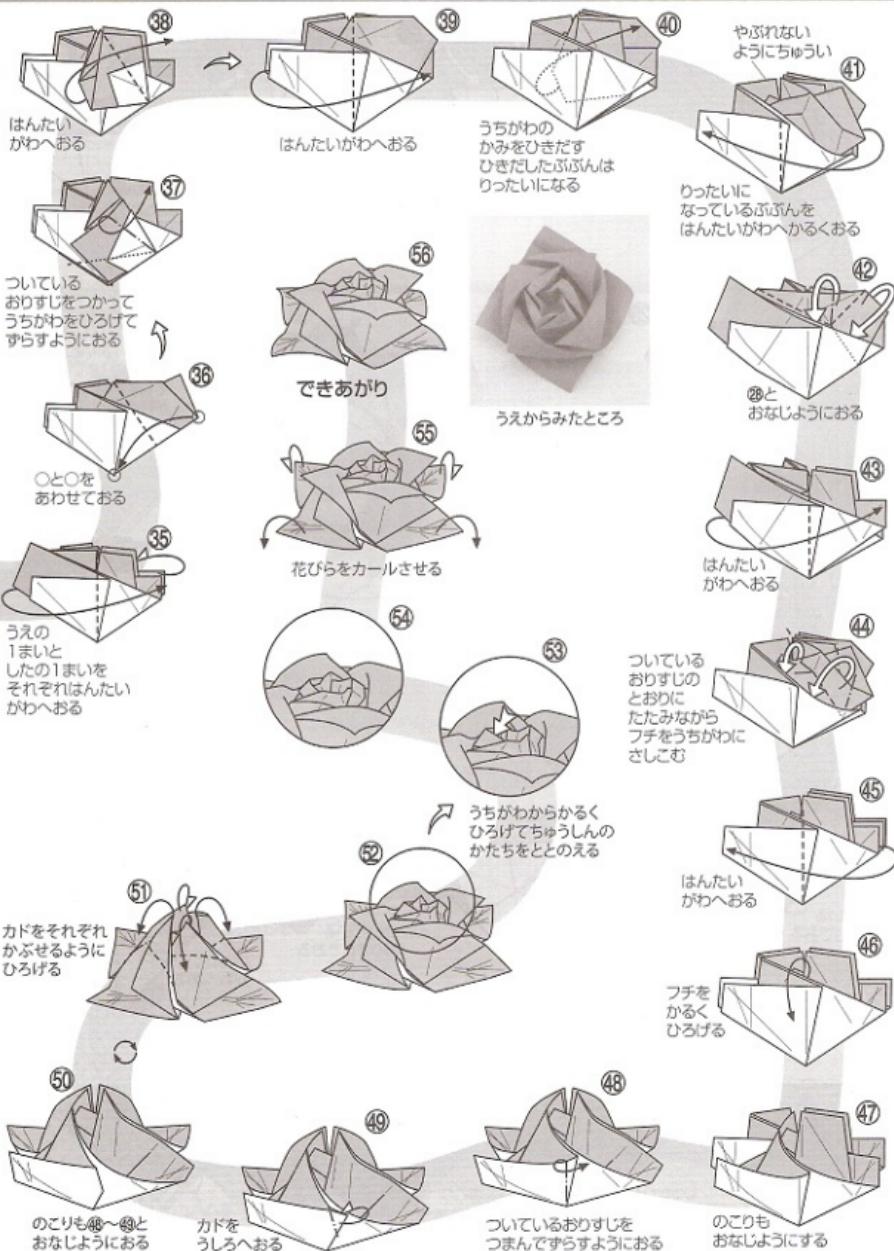


立体的で豪華なバラですが、きれいに折るのは少し難しい作品です。
仕上げ方は、折の方の技量で工夫してみて下さい。

正方基本形から始める









折り紙の知的財産権に関する活動報告

A Report on the Intellectual Property Right on Origami

西川誠司

Nishikawa Seiji

＜はじめに＞

著作権を含む折り紙の知的財産権に関する問題については、「折紙探偵団マガジン」誌上でも様々な形で議論してきた。こうした活動の中で見えてきた大きな課題の一つは、折り紙を専門としないメディア(出版社、放送局など)の「折り紙の知的財産性」に対する理解の低さと言える。TVや新聞さらに最近では大手のインターネットプロバイダなどのマスメディアが「折り紙の知的財産性」についてどのような意識にあるのかは、その影響力が非常に大きいだけに重要である。少なくとも戦後半世紀以上にわたって折り紙が「鶴」や「かぶと」のような伝承作品以外に創造的新作を生み出す文化を育んできたこと—『月刊おりがみ』や『折紙探偵団マガジン』読者には自明のことの事実を—多くの折り紙を専門としないメディアは実質的に知らない。

2005年5月に日本折紙学会(JOAS)が提案したガイドラインはこの知的財産権のうち著作権における「著作者人格権」に対応する権利について、それが尊重されるべきであると明確に主張したものである。わかり易い言葉で言えば、「一般に、折り紙には作者がいる」ということだ。折り紙の近現代の新作は「折り上がり作品」あるいは「折り工芸図」あるいは「展開図」あるいはそれらが組み合わされて、その創作者あるいは作図者の氏名とともに作家の手による書籍あるいは専門雑誌(日本折紙協会(NOA)の『月刊おりがみ』、JOASの『折紙探偵団マガジン』、世界各国の折り紙協会の機関

誌)に公表されている。

この新作の創造性に関してはその工程数には全く依存しない。本誌読者なら工程数は少なくてもオリジナリティー溢れる作品を幾つも思い浮かべることが出来るはずだ。オリジナリティーや作品の価値の判定は、既に著作権等が当たり前に認められている世界においても決して易い問題ではない。

これらは、時代や見るものの知識の背景や価値観で変わり得るし、常に一定の幅を意識しなくてはならない。どんな作品がどのような背景で生まれ、どんな価値が見出されてきたかを考えることは、それぞれの文化を担うものの研究に依存している面がある。しかしそれらとは独立して、あるいは大前提として「一般に、折り紙には作者がいる」という事実は重要である。

＜NHK まる得マガジン＞

さて、2008年初頭にNHKの「まる得マガジン」で折り紙が取り上げられた。まる得マガジンはNHK教育テレビ放送の5分間の情報・教養番組。

この番組は2003年4月から毎週月～木曜日の21:25～21:30に本放送、翌日以降に何回か複数の時間帯で再放送され、多くのひとがこの放送を目にした。同番組は料理、手芸、教養、健康、美容、娛樂など幅広いテーマを扱う人気番組である。1つのシリーズは8～20回程度で、初心者でも楽しめるように短い時間で判りやすく解説するとともにテキストの出版(NHK出版)が連動する企画である。この、2008年

1月発売号のNHKまる得マガジン『伝えたい!季節の折り紙』(小林一夫著)がTV放送と同時にテキストとしてNHK出版から発行された。

本番組およびテキストの編集方針は著者である小林氏とNHKの放送、出版に関するプロデューサーが共同で作り上げたが、折り紙の知的財産権に関して問題意識を持つ側から見れば非常に課題の多いプログラムであった。問題はNHKの制作サイドがどのように考えているかという点にあった。特に、本書で取り上げられたDavid Petty氏の「動くハート(原題 Beating Heart)」については、David Petty氏のクレジットがなく、David Petty氏が日本で唯一掲載を許諾したNOAの雑誌『月刊おりがみ』(222号)の折り図とほぼ同じ折り手順で記載されていた。これだけでもNHKに対してその認識を確認するに足る状況ではあり、非公式ながらNHK出版関係者と懇談の機会を得た(2008年2月)。この懇談は非公式であったため、特に議事録は残さないことにしたが、今後のNHKの理解の進展に期待することにしたのだった。ところが、およそ2ヶ月後、残念なことに、Petty氏自身がNHKに問い合わせしたことに対するNHK制作プロデューサーとNHK出版担当者連名の返答は私達を悲しませるものだった。その主要部分を引用しよう。

「However, generally speaking, no copyright is given to Origami under Japanese law at least. Therefore, it is needless to say that permission of any party is



折り紙の知的財産権に関する活動報告

A Report on the Intellectual Property Right on Origami

西川誠司

Nishikawa Seiji



動くハートを初めて紹介した
『月刊おりがみ222号』(絶版)
の表紙

not necessary for us, NHK or NHK Publishing Co., to introduce such model in question in TV program nor books. Consequently we are firmly convinced that it is not the case that we are requested for any compensation as claimed and credit to be inserted in future copies of this book.」(NHKからPetty氏に宛てた見解 2008年4月)

< NHKとの交渉 >

JOASとNOAはこの事象を重く受け止めた。折り紙創作者当人からの問い合わせに対して創作者のクレジット(著作者人格権)をも認めないと断ずるこの返答は、日本を代表するマスメディアが折り紙文化を軽視していると海外から受け止められかねない。実際、この返答については一部の欧米作家の間でも問題となり、折り紙発祥の国の一つとして各国から敬意も払われている日本において、折り紙の創造性に対する評価の低さが信じられないといった問い合わせもあった。

一方で、本件以降もNHK関連の制作会社等からの番組協力や出版協力の問い合わせがNOA、JOASや関係する作家に対して複数あり、そこでは番組で紹介する折り紙作品の創作者の確認が実施されているケースも少なくなかった。もし、このような対応がNHKの折り紙に対する基本的な認識の下に実施されているならば、先のPetty氏への回答は何らかの誤解がもとで生じているのであり、決して日本を代表するマスメディアが折り紙文化を軽

視しているのではないことを確認し、Petty氏やその他の返答に悲しんだ海外の折り紙作家や折り紙協会の友人達に伝えることが出来る。そこで、JOASとNOAは共同で弁護士と相談しながら、NHKの著作権および知的財産権に関する代表的な見解を求める道を探った。そうして、2009年5月、JOASとNOAは連名でNHKに対して折り紙の知的財産性に対する基本的な考え方を確認する意見交換の場を求める内容証明郵便を送付し、2009年6月16日と10月26日、NOA事務局にてNHKライツ・アーカイブセンター(著作権・契約)との意見交換の場を持つに至った。この結果、内容証明郵便への公式回答として以下に要約する回答(回答書簡原文はJOAS図書資料に収載:誌上での全文の公表は行わないようNHKから要望が有ったので配慮した。今後の研究資料として日本折紙学会員が閲覧できるようにJOAS図書資料として収蔵することをNHKは認めている^①)を得た。

NHKとしては、

- 1) 折り紙は日本の貴重な文化であり、その発展は日本の文化全体の発展に繋がると考えており、日本の公共放送局として、国内外の文化に関する様々な情報を取り上げ、紹介することにより、日本の文化の継承・発展に資する放送番組の制作・放送を行ってゆく。
- 2) 折り紙は美術の著作権に該当しない限り著作物とは言えないと考えている。折り方について許諾や名前表示等について法的義務が課せられていると言えない^①と考えているが、多くの

個人や複数の団体が伝承の折り方以外に新しい折り方を案出することは承知しており、今後とも著作権に関する様々な法律学説や判例等にも注意を払いながら、折り紙の取り扱いについても対処していく。^②

3) 営業、出演者、取材相手等、NHKの番組制作に協力してくださる方々に対し、敬意をこめた誠実な対応を心がけている。^③ 放送で新しい折り方を取り上げる場合、考案された方に対するご連絡やお名前の表示方法等については、当該の個別番組の担当者が、出演者や監修者の方々と十分に協議をし、番組で紹介する内容やNHKの放送表示基準その他の個別事情を勘案して、その都度、判断することとする。^④

本回答は、非常に官僚的な答弁とも言えるが、意見交換の中で下線部①は具体的かつ明確な法的根拠が示されておらず、また、NHKからPetty氏に対してのメールは、配慮に欠いているとの言質も得た。また、文化庁の編集した最新版の『著作権テキスト^⑤』を通読しても、折り紙の折り方に著作権がないと読み取れる要素は全くなく、むしろ同テキストには「近年、知的財産権の対象は拡大される傾向があり、今後(略)様々なものが保護の対象となる可能性があります。(p.1より引用)」と記されている。下線②の態度を貫けば、折り紙の作品性への理解が進むにつれ下線①のような無理解を明確に変更することになるであろうと期待する。NOA、JOASとしては「折り



1993年のNOA箱根シンポジウムで講習するベッピさん(『月刊おりがみ220号』(絶版)掲載)

紙は、美術の著作物に該当するのは当然であり、また折り紙の作品性は最終的な形とその構造(一定の折り方や展開図)が不可分(作品表現の一部)である特徴を有する美術分野と見なすべきであり、それら總体に対しての考査者・作者の著作性は明確である³⁾、そして「一般に、折り紙には特定の作者があり、したがって、多くの場合、著作者人格権に配慮した取材を行うべきである」と考えている。NHKからの取材を受ける際は、このような見解への配慮を求めるることは、下線部③、④のような取材方針から保証されているので、今後、会員各位には、取材を受ける際には、都度に著作者人格権に配慮を求め、取材者側と十分協議いただきようお願いしたい。

〈おわりに〉

冒頭にも述べたようにTVや新聞さらには大手のインターネットプロバイダなどのマスメディアが「折り紙の知的財産性」についてどのような意識にあるのかは、その影響力が非常に大きいだけに重要である。「まる得マガジン」に端を発した今回の一件によって、日本最大のマスメディアであるNHKの著作権部門との意見交換の場を持てたことは、折り紙の現状を多くの方に知ってもらい、普及させてゆくにあたって価値あるステップだった。多くのメディアにとって非伝承的な折り紙の存在が未だに新鮮であるのも事実だろう。新鮮であるが故にその作品性に対する理解も乏しいと言える。一方、それ故にニュースバリューを持

○西川誠司(にしかわ・せいじ)
=1963年6月13日生まれ。日本折紙学会 評議員代表。



ち取材されるのであり、我々にとって自明なことであっても繰り返し取材、報道されることは折り紙の普及のためには喜ばしいことだ。だからこそ、同時に折り紙の作品性についても伝えてゆくことが必要であり、単純に「折り方はアイデアである」とか「折り方に著作性がない」というような折り紙の作品性に無理解なメディアの認識をこれからも継続して正してゆく必要がある⁴⁾。「折り紙の知的財産性」についてのメディアの理解を得るべく、今後もNOAとJOASは協力して活動を展開することになるだろう。

〈補足〉

本報告の一連の活動を行うにあたり、内容証明郵便の作成、NHKとの交渉に対する助言を弁護士に求めた。これに関する費用はNOA、JOASが折半して負担した。JOASの本費用は、「折り紙の知的財産権検討基金」に依った。

〈参考文献・資料〉

- 1)『日本放送協会 ライツ・アーカイブセンター 岡本部長より、日本折紙協会 代表取締役 佐野友、日本折紙学会 評議員代表 西川誠司に宛てた書簡』平成22年7月12日、日本折紙学会図書館収蔵
- 2)『著作権テキスト 平成22年度版』文化庁長官官房著作権課
- 3)『第3回折り紙の著作権に関する国際会議講演会(東洋大学)』発表資料 西川誠司、2010年8月13日、日本折紙学会図書館収蔵
- 4)例えは、『著作権の世纪』(集英社新書 福井健策 2010)のpp.214-

220の記述は極めて示唆に富む。一部を引用すると、【前略】・これらがいわば、情報の自由流通と占有管理の現在形であり伝統的な形ですが、第一に、両者の境界線は「線」と呼ぶにはあまりに曖昧です。しばしば境界はグレーです。言葉にすれば、「創作的な表現(著作物)は、PD(引使用者註:パブリックドメイン)保護期間が切れたもの)ではなく、制限規定(引使用者註:私的複製等、著作権の制限が規定されている使用方法)が働かないなら、独占の内側。事実やデータは外側」というように区別出来ますが、実際にはその「事実」と「創作的な表現」の境目がグレーです。「創作的な表現」と「ありふれた表現」の境界もグレーです。「アイデア」と「表現」の境目もグレーです。・中略・。そして第二に、この境界が変動します。・後略】(pp.219-220)とあるように、アイデアと表現、ありふれた表現と創造性のある表現の境界がグレーであることは、著作権を専門とする弁護士も明確に指摘しており、折り紙においても創作の実態を理解すれば「折り方がアイデアである」といった理解は単純に過ぎ、説得的とは到底言い難いと考えられる。むしろ、同書が指摘しているように著作物については、フェアユースなどの制限規定を明確化、拡充する議論が重要であり、折り紙においても著作性を明確にした上で、どのような利用のされ方に制限規定を許容すべきかの議論に早く移りたいと、筆者(西川)は考えている。これらについては時を改めて議論したい。

『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Orikata" Revisited

岡村昌夫
Okamura Masao

第3回 千羽鶴と桑名 Senbazuru and Kuwana City

研究の先駆者たち

『千羽鶴折形』については昭和32年に吉澤譚氏が研究成果を発表、同9月21日号の『週刊朝日』に紹介されて世を驚かせた。しかし、その時は、桑名の僧義道や秋里離島などの名は全く触れられもしなかった。折紙界が知らなかっただけでなく、桑名と関係があることを桑名市でも知る人がいなかつたのである。

吉澤譚の発表は会員以外には読めない機関誌上でもあり、断片的でもあった。全体をもっと知りたいという熱心な折紙人が何人かいた。この時期で特筆すべき一人は、長崎の児玉一夫氏で、この人は原本を手に入れないと各地の古書店に手配をして、ついに願いを叶え、知人から借用したと称して写真を折紙界に提供し、笠原邦彦氏の啓蒙活動へと繋げたのだった。

もう一人の情熱家が、当時は東京、現在は伊豆在住の中西康夫氏である。原本を国会図書館などで読みながら、まずは「作者」の探求が始まった。原本に「此鶴の折形は勢陽九花魯縞庵のあるじ数の歳月手懸みにせられし也」とあるが、「勢陽九花」が「伊勢の桑名」であることを知って、その地の「魯縞庵のあるじ」について桑名市の観光課に問い合わせたのが始まりだった。昭和39年1月24日付で、桑名市立図書館の平岡潤氏から2枚のはがきが届いたのである。その文面をここで、紹介したい。当時の状況がよく分かる重要資料である。平岡氏は、すでに『桑名市史』(昭和34年3月刊)の編纂に加わり、その後、桑名市立美術館(のちの市立博物館)の初代館長にな

なる。第一回自由美術家協会賞、第三回中原中也賞の受賞者であり、当市きっての文化人であった。

中西氏あて平岡書簡

「拝復 観光課宛『千羽鶴折形』の著者勢陽九花魯縞庵義道に就いてのお問合せに就いて左記お答えいたします。

一、「千羽鶴折形」という和本に就いては初めて知りました。著者が魯縞庵であってみれば、間違いなくありそうな趣味本だと思います。この和本の写真にてもよろしいから一度拝見いたしました。

二、(略)

三、魯縞庵は雅人が(文人墨客)用いた雅号です。魯縞庵とは中国の魯の国で出来る薄い細やかな白絹のことをいうので、この人は実は桑名伝馬町長円寺の僧侶(住職)で義道という才学もあり詩文もよくした学者であります。普通魯縞庵義道、とか別号双(雙)五

子という署名をすることもあります。最も特徴は地誌に秀いで「桑府名勝志」「久波奈名所図会」という著書を残していることです。第二枚へづくく残念なことに全著作が戦後失われ、漸くのことには私が奔走してその重要なもののだけは、この地に残し当市の文化財にすることが出来ました。それ程この土地では魯縞庵に就いては関心が薄いのです。長円寺は現在もありますが、遺物は伝わらず、前記二書のみで、精細なことはよく判りません。ただ没年が天保五年であったというだけで何歳ということも知れません。当市は戦災都市で長円寺も焼け、過去帳も消失、今のところ調べることも出来ぬ次第です。寛政年間には上記の名所図会を丹念に編集していたようです。

四、著作、桑名年代記、桑府什宝記、公私文庫、松雲集、日南集、一步艸、古語園、諸国方角図、素雲鶴一折、算鏡、角力番附、和漢古鏡二百品、

以上のような次第で、今度のお問合



平岡潤氏から中西康夫氏に届いたはがき

○岡村昌夫（おかむら・まさお）＝1934年東京生まれ。折り紙の歴史研究家。日本折紙学会顧問。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



せは当方によりましても大へんよい参考となりまして厚く御礼申上げます。(略)

ここが原点であったという感概を禁じ得ない。吉澤氏の発表以来7年を過ぎて初めて『千羽鶴折形』と義道が結びついたのである。

平岡書簡の問題点

魯縞庵を「著者」としている誤解は、止むを得ない段階だった。その他、この書簡で問題になる部分に触れておきたい特に後半部である。

まず、魯縞庵の全著作が「戦後失われ」という、重要証言がある。戦災で消失しただけではない事情があったらしい。私が直接、住職長藤賢龍さんとその実姉龍子さんからお聞きしたのは、先代住職が疎開を嫌ったので、内緒で『久波奈名所図会』だけを疎開させたということだけである。

もと陸軍大尉だった平岡氏は、フィリピンから復員後しばらく古本屋を

したことがあった。その間に、資料の流失を防ぐのに奔走されたのである。「その重要なものだけは」当地に残したというのだから、他にもあった筈であるが、それが何だったかは判らない。残ったのは長円寺の『久波奈名所図会』と『桑府名勝志』(写本)、個人に分散所有されていた『縞庵隨筆』だけが知られている。

次に、義道の没年の件である。ここでは「天保五年」というだけで、何歳であったかも不明としている。ところが、平岡氏は昭和50年9月に急逝され、翌昭和51年3月刊の『桑名市指定文化財』に、同氏は「天保五歳、75歳」と書いていた。(ただし、平岡氏の書いた「後記」の日付は44.12.20.)

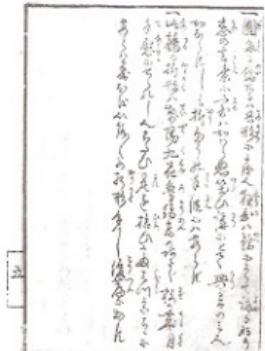
ここでお詫びするが、前々回の当欄で、平岡氏が『桑名市史』に天保5年云々と書いたとしたのは全く私の記憶違いで、事実は上記通り『桑名市指定文化財』であり、それには「1月1日」は書かれていた。訂正しておきたい。しかも『桑名市史』には「天保二年、寂73」と書かれていて、私が住職からお聞きした寺の資料では、天保5年の1月1日が命日ということであった。(住職から「75歳」も聞いたとする情報もあったが、住職はそう言った覚えは無いと断言された。)もし73歳説をとると、義道の最初の著作『古語圖』の『安永戊戌』(『久波奈名所図会』巻末記載)は数え17歳になってしまい、少し早すぎるかと思う。いずれにしても天保5年は確定しているはずであった。(現在の桑名市の正式サイトでは、天保2年説、5年説が混在していて、ともに73歳説をとっている。不

審。)

書簡末の魯縞庵の著書目録は『桑府名勝志』によるが、ここでは原写本からの引用ではないようだ。折鶴関係で重要な『素雲鶴』を「一折」とするのは誤りで「全」が正しいのであるが、他にも「一折」と誤引用された例があるので注意されたい。「素」は「白」の意で、これは義道が書いた唯一の鶴の「つなぎ折り」の本であるが、「一折」のような簡単な展開図集ではなかつた筈である。『秘伝千羽鶴折形』編集の際に蘆島に貸し出されたことは確かだろうが、全く行方不明である。(義道の著作物については、拙著『つなぎ折鶴の世界』にまとめてるので、参照されたい。)

その後

桑名市でも、義道と折紙のつながりは全く忘れ去られていたし、つなぎ折りの技術が伝承されていた訳でもなかった。平岡氏は中西氏から折り見本を送ってもらい実態を知るとともに、当時の資料に書かれていないかを調査されるうち、ついに藩儒広瀬蒙齋の文集から『紙鶴記』を見出して、義道が折鶴名人であったことを裏付ける当時の記録に到達したのであった。しかし平岡氏は、義道を『千羽鶴折形』の著者と誤認したまま、急逝してしまい、家族の無かった氏の遺品は散逸し、業績も短時間のうちに忘却されたようだ。残されたのは、「桑名の千羽鶴」の名で市指定文化財(芸能)となった鶴たちであった(昭和51年3月22日指定)。具体的には何がどう指定されたのか、つまびらかではない。



『千羽鶴折形』原本より「勢隔九花魯縞庵のあるじ」とあるページ

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

羽鳥公士郎 Hatori Koshiro

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

23冊目 『折り紙読本 I』 吉澤章著

"Origami Reader I" by Yoshizawa Akira

吉澤章の『折り紙読本 I』は、1957年に緑地社から出版されました。その後、1967年に鎌倉書房から、1999年にニューサイエンス社から再版されており、現在でも手に入る吉澤の著書としてはもっとも古いものです。

なお、続編にある『折り紙読本 II』が、1986年に鎌倉書房から出版され、1998年にニューサイエンス社から再版されています。

『折り紙読本 I』は半世紀以上前の著書であり、創作技法という観点から見れば時代を感じざるを得ませんが、文章除く吉澤の折り紙哲学や、作品の写真からうかがえる表現力は、現在見ても決して古くありません。吉澤が今に至るまで、特に海外の多くの折り紙作家に影響を与え続けているのも、この本を読むと理解できます。

この本には「あそびから創作まで」という副題がついています。折り紙の本と言ふと、本に示されている折り方の通りに折るためのものという考え方が一般的かもしれません。吉澤はこの本を、創作と表現に導くためのものとして構想しています。



ニコラ・サイエンス社版の表紙

この本は三部から構成されており、第一部が幼児向き、第二部以降が一般向きとなっています。

幼児向けの折り紙について、吉澤は「その扱い方が適当であれば子供の想像力を育てますが、これまでのよう横模倣的な手工のままでは創造美育の見地からすれば相当に反省の余地があります」と書いていますが、至言と言えでしょう。

ここで「横模倣的な手工」と言っているのは、「その通りにできたらそれでよい」というような折り紙の教え方です。それだけでも幾ばくかの教育的効果はあるでしょうが、吉澤は折り紙を「藝術への鑑賞」であってほしいと考えており、そのためには「折り紙の可能性について最も基礎的な事柄を深く掘り下げてみる」必要があると述べています。

2枚の紙で折る「き」(木)では、「一度もんでのばした紙で作れば別の感じができます」と書いています。幼児向けの作品でこのような表現方法まで説明していることに驚かれるかもしれません。吉澤の考えでは、紙を揉んだりねじったりして紙の面を変化させることによる表現は、「紙自体のもつている『ことば』をききとること」であり、「折り紙のことば」の基礎となるものです。

幼児向けの作品は、折りは単純でなければなりませんが、単純な折りであってもさまざまな表現ができ、むしろ単純な折りによる表現の可能性を追求することが、吉澤の考える幼児向け折り紙なのです。

第二部の冒頭では、折り図記号の説明といいくつかの簡単な作品の折り図に続き、16の「基礎折り」が挙げられています。こ

れは、現在一般的な用語で言えば「基本形」にあたるもので、基礎折りAが鶴の基本形、基礎折りEが蛙の基本形で、そのほかは基本的に、これら2つの基本形の組み合わせや変形となっています。

このうち、正方形から折るものは4つだけで、菱形、直角二等辺三角形、正三角形、長方形の用紙が使われています。吉澤の興味は、これらの幾何学的な関係よりも、これらを使ってどのような作品が作れるかということにあるようで、「基礎折りはそれぞれ個性があり独立したものだと述べています。

また、それぞれの基礎折りに折るための手順が示されているものの、「折り目をつけて折りまとめて、なるべく出来上がりの形に無駄な折り目の残らないようにします」とも書いており、ここからも、折り上がった作品の見た目を重視していることがうかがえます。

鶴の基本形から折る作品として「はばたくはと」が紹介されていますが、同じページに、参考図として「はばたく折る」、「からす」、「きじ」、「こうのとり」、「わし」、「すずめ」、「ちょうとんぼ」の完成図が掲載されています。これらの作品の折り図はありませんが、鶴の基本形から比較的容易に折ることができます。

折り紙の本には、作品の写真や完成図が載っているのに折り図がないことがあります。そのような場合に「作れないのではないか」と不平を言う人がいるかもしれません、少なくともこの本に



○羽鳥公士郎(はとりこうしろう)
=図書館担当。主に図書の管理・
検索システムを構築している。本稿
はウェブディレッタ/翻訳家。



関して言えば、そのような不平は筋違いと言ふべきでしょう。

この本の場合、写真や完成図は、あくまで例としてあげられているのであって、それと同じ物を作ることがこの本の目的ではないのです。むしろ、それらを参考にして、自分なりの創作や表現をすることが目的とされています。説明されている折り方もまた、参考として示されていると考えるべきでしょう。

吉澤は、正方形用紙に対してはまったくこだわっていないようですが、一枚の紙で書き込みも切り込みも使わないことについては、これを「純粋な折り紙の立場」であると言い、若干のこだわりを見せていました。しかし、複合や加筆、切り込みについて、それらがなくても個性のある形にすることができる場合に、補助的に用いるとしています。

実際、この本には、現在の用語で言えばユニット折り紙にあたる「くすだま」や、鶴の基本形2枚による動物、切り込みを使った「かざりかぶと」が收められています。吉澤は、いわゆる4ツを「基礎折り」に含めていますので、動物などなら技術的には1枚で作ることができてしまうが、この本には手数の多い作品は收められていません。創作技術の追求ということに興味がなかったわけではないのでしょうか、あまり複雑な作品はこの本にはふさわしくないと考えたのかもしれません。

とはいって、手数が少ない作品でも、必ずしも簡単に折れるわけではありません。この本の「もくじ」では、作品の難易度が、丸、二重丸、三重丸で表されていますが、興味深いことに、図にしてわずか6工程で、ぐらいたりもあまりない「修道女」が、三重丸になっています。



「修道女」

吉澤はこの作品について、「製図通りに折っただけでは角錐形の感じになって直線と平面の構成が堅すぎます」と述べています。折り図の上では簡単に見えて、修道女らしく折るのは難しいというわけです。そればかりか、吉澤の作例に見られるような表情や雰囲気を表現するのは、至難の業でしょう。

このような作品は必然的に「二度と同じ形には折れない作品」となります。この本の第三部には、そのような作品の写真がいくつも掲載されており、写真だけ折り図がないものも何点かあります。

吉澤は、「作品の気品」を高め、「周囲の空間をそれぞれの意味をもって支配」するような作品を作る必要があると述べています。これほどんど同じことを、著名な画家である千住博が書いているのを、筆者は読んだことがあります。吉澤が芸術を深く理解し、その上で藝術として折り紙に取り組んでいたことがうかがえます。

そのことは、吉澤が象徴的作品や抽象的作品に言及していることからもうかがえます。もちろん、自然物を折り紙で表現しようとすれば、程度の差はあれ必ず象徴化を伴うのですが、吉澤が象徴的作品の例として挙げている「鳥」の大胆な表現は、今に至るまで類例がないと言ってもよいだろうと思います。

抽象的作品について言えば、この本に紹介されているのは、一般的な芸術の基準から言えば習作と言ふべきだろうと思いますが、「折り紙読本 II」の口絵にある「希望」と「絶望」は傑作です。このような折り紙を吉澤の後に追求している人が少ないと、筆者は残念に思っています。

吉澤は、1954年に国際折り紙研究会を設立し、1955年にはアムステルダムで個展を開いています。この本を書いた時点では、すでに折り紙の国際的な展開を意識しており、「はしがき」で「折り紙が世界をむすぶ愛情の言葉になることを祈念します」と書いています。それから半世紀経った今、折り紙は世界中でさまざまな方向に発展していますが、それに対して吉澤の折り紙が大きな役割を果たしてきたことが、この本から読み取れます。



「鳥」



「希望」

今からはじめる

22.5度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

小松英夫 Komatsu Hideo

第3回 分子の置き換え

Restructuring Molecules

第1回では、〈前川式折り紙設計〉の道具となる〈前川分子〉の代表的な4種を紹介し、それらを“適当に”組み合わせて、新しい展開図を作りました。第2回は、〈円図〉そして〈樹状図〉を書くことで、展開図から基本形の形状を読み取り、実際に折った基本形と比較してみました。さあ、この基本形から何を作りましょうか？

■基本形の検討と修正・1

早速、基本形の折り上がりを調べていきましょう。前回の図8で、山谷つきの展開図を示していますが、実際に折ってみて、違う山谷のつけ方があることに気づかれた方がいるかもしれません。というのは、内部カドFを収めることができるヒダのすき間が複数あるためです（図1）。写真1上は、cのすき間にカドFを入れるように折ったものです。こうすると、写真1下のように折り込むことで、カドFを完全に基本形の外側に生やすようにすることができます（同時にカドCの形状・大きさも変わります）（写真2）。

この変化を展開図上で見てみましょう。図2が写真2に相当する展開図です。アミ掛け部分が小さい直角二等辺三角形分子に置き換わって、新しく小カドGが生じています。ただし写真で見たとおり、カドFを外側に出す場合には、このカドCはほとんど無いものと同じになってしまいますが。

■基本形の検討と修正・2

さて、写真2を見ると、6本の足……昆虫になりそうな形ができています。少しありがちかもしれませんのが、素直に昆虫を作つてみることにしましょうか。とりかかりからして“行き当たりばったり”的性格の強い創作手順を探っていることもあり、今の段階では

あまり具体的なイメージを持つ必要もありませんが、コガネムシのようなタイプを目標のイメージとして掲げておきます。

今、この基本形は、対称軸で半分に折れていて横から足のカドが出た形になっています。まずは、よりコガネムシらしい形が折りやすくなるように、平たい「アジのひらき」のような形状——基本形の下側から足のカドが出てくるように——に修正したいと思います。もちろん直接基本形をいじつて、そうなるよう折り変えても良いのですが、設計らしく展開図上で考えてみましょう。

展開図上で考える、と言つてもそう難しいことではありません。ひらくのを妨げている原因是、対角線をまたいでいる分子ですから、それらを左右で分かれているように置き換えればいいのです。

ただし、6本足の長さはそのままにしたいので、「足（カドB, C, F）の円領域の大きさを変えないこと」を条件に入れて考える必要があります。図3、写真3は、この条件から外れた例です。どれも、対称軸の左右で分子が分かれているのは良いのですが、カドFの円領域の大きさが小さくなってしまっています。

図4が、うまく置き換えられた例です。これを折った新しい基本形（写真

4）では、ちゃんと「ひらき」の形状が取れています、写真2と比べてコガネムシっぽい形に近づいていますね。カドJは触角に使えるかもしれません。図5、写真5は別の例で、図6のような菱形の分子を使った、もっとシンプルな展開図です。

■分子の置き換え

上でおこなったような展開図の修正方法、具体的には「ある分子の配置パターンの、別パターンへの置き換え」は、22.5度系設計の基本的技術のひとつです。第1回の復習になりますが、さまざまな配置パターンが可能になっている背景には〈22.5度メッシュ〉の幾何学があります。分子の置き換えに限らず、展開図を見る際に、22.5度メッシュを意識してみてください（図7）。

■〈展開図〉と〈折り〉の往復

「今おこなっている折りの操作が、展開図ではどう対応しているのか」——普段から「形の変化」と「折り線構造の変化」をセットにして考えることが、創作の上達に繋がります。実際、展開図を経由することで、折りの技法に着眼していただけでは気づけなかったような処理を思いつくこともあります。既存の折り図を教材として、基本形までの途中形からいくつか選び、展開図を描いてみるというのも良い練習になるでしょう。

次回も、引き続いていくつかの別パターンを見ていく予定です。

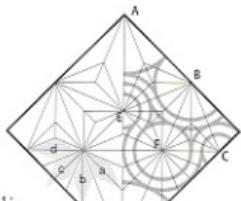
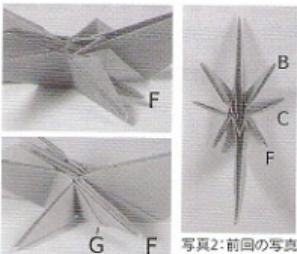


図1:
内部カドFは、
a, b, c, dの4つの
すき間位置できます。
前回の図8の展開図はbの場合



○小松英夫（こまつ・ひでお）
第1回で金3回と予告しました
が、期をまたいで掲げさせていた
だきます。



写真1:多くの人が、下のよ
うに折りたくなる(はず)

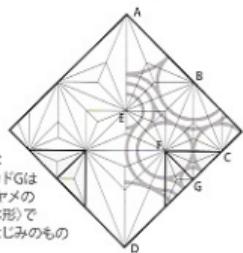


図2:
小カドGは
(アヤメの
基本形)で
おなじみのもの

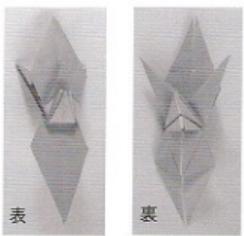


写真3:図3右の「切り出しナイフ型分子」が使
われている展開図を折ったところ。実際折っ
てみると、かなり折りにくいやバーンです



図5:
手で折って
探した場合は、
図4よりも先に
こちらに辿り着き
そうです

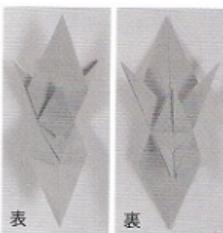


写真5:図5を折った形

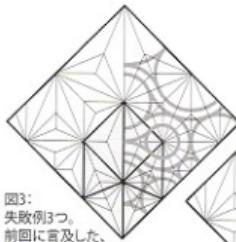


図3:
失敗例3つ。
前回に言及した、
「小さい円領域に引きずられて
不要な帶領域が発生する」例です。
帶領域がカドFを囲んでいるので、
カドGのすき間から外に出すことが
難しくなっています

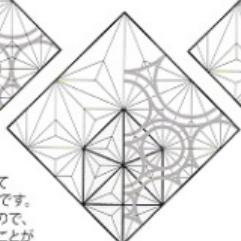


図4:
直角二等辺三角形
分子4つ×Yバーン分子
4つで書き換えました。
用紙内部に「鶴の基本形」が
現れています(灰色部分)。用紙内部からカドを折り
出したときに、「鶴の基本形を埋め込むのは、扱い
やすい定番パターンのひとつです

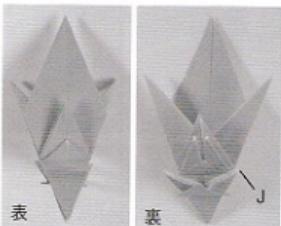
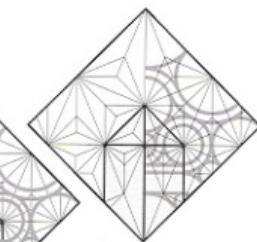


写真4:図4を折った形

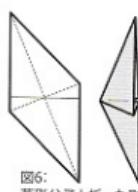


図6:
菱形分子と折った形

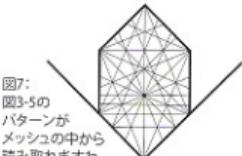


図7:
図3-5の
パターンが
メッシュの中から
読み取れますね

本連載で登場した展開図のデータを公開します。
(高画質の画像やORIGAファイルなど)。
URL: <http://origami.gr.jp/~komatsu/kigurumi/>

— ORIGAMI PHOTO GALLERY —

オリガミ・フォトギャラリー

解説：北條高史
Comments : Hojo Takashi

第21期JOAS会員特別配布資料掲載作品より Models from the JOAS Annual Special Booklet of Its 21st Year

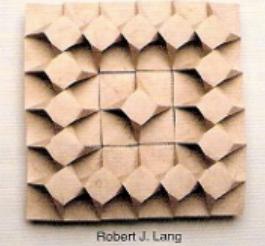
■例の長編折り図に加え、今年は初公開の展開図が29作品ぶん掲載されている豪華仕様。気合いを入れて真剣に取り組むと1年でも終わるかどうか…というは大げさかもしれません、隅から隅まで、骨のズイまで味わいいくください。



Roman Diaz



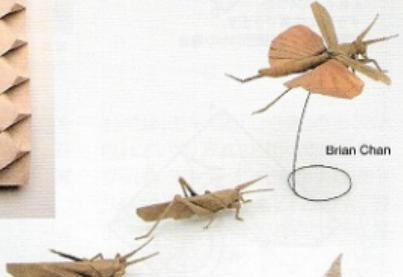
Hojo Takashi



Robert J. Lang



Kamiya Seisaku



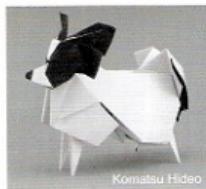
Brian Chan



Jang Yong Ik



Kawahata Fumiaki



Komatsu Hideo



Jason Ku



Quentin Trollip



Tran Trung Hieu



Katsuta Kyohei



Morisue Kei



Robert J. Lang



Toyomura Takashi



Takeda Naoki



Yamashita Kazuki



Kashiwamura Takuro



Miyamoto Chuya



Horiguchi Naoto

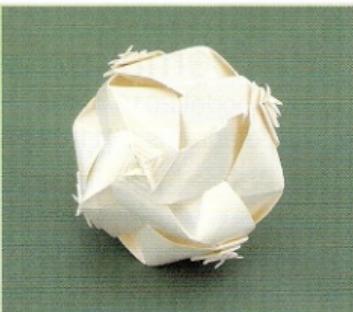


Manual Sirgo

未曾有の大災害、大変な状況のもとで本書を手にするかたもいらっしゃると思います。直接的な助けにはならないけれど、少しでも気分転換や気力回復に繋がることがあれば…と願いつつお届け致します。

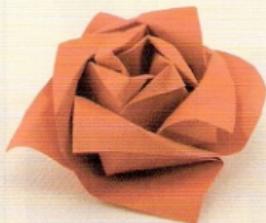
「うず玉2010」作：川崎敏和 (P.4)
Whirling Ball 2010: Kawasaki Toshikazu (P.4)

■部品同士の組み合わせ部分に生じる空間構成は、ユニット作品の醍醐味のひとつ。1枚折り作品では決して出現し得ない隙間の形・緊張感のある曲面も、「うず組み」構造と相性が良いようですね。



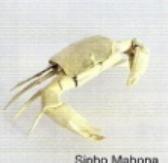
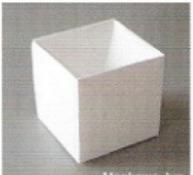
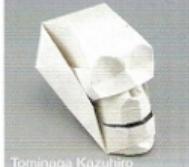
「バラ」作：やまぐち真 (P.8)
Rose: Yamaguchi Makoto (P.8)

■丸っこくてモリモリした印象のかわいらしいバラです。しっかりと巻き込まれて高密度な様子は「キャベツ感」と言ったらいいのか、「十二ひとえ感」とでも言うべきか。



「スピノサウルス」作：川畠文昭 (P.33)
Spinosaurus: Kawahata Fumiaki (P.33)

■背びれの骨（棘突起）が平行に近い雰囲気で折り出される構造。背びれと胴体の接続部分で、ヒダ折りのたるみを吸収・展開する仕組みが複雑そうですが、折り図上で紙の動き方をぜひ見てみたいものです。故・吉野一生氏の作品では放射状になっていたこの部分、折り比べてみるとさらに理解が深まることでしょう。



特別配布資料折り図掲載作品
A Model in the JOAS
Annual Special Booklet
(with Diagrams in It)



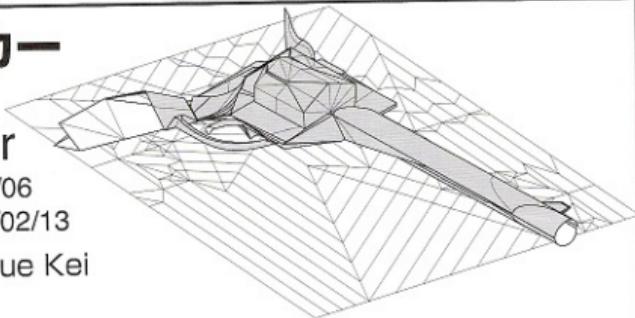
ピースメーカー

Peacemaker

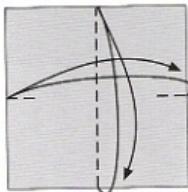
model:2010/12/06

diagrams:2011/02/13

森末 圭/Morisue Kei

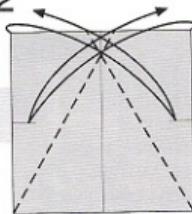


1



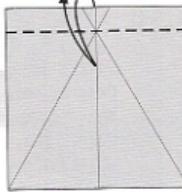
半分に折り筋をつける
一方は縁のみにつける

2



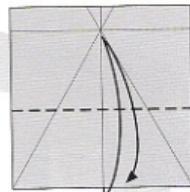
カドを折り筋にのせて
折り筋をつける

3



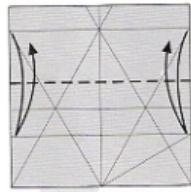
交点を通る折り筋をつける

4



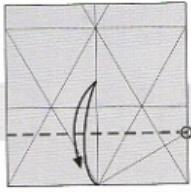
縁と折り筋を合わせて
折り筋をつける

8



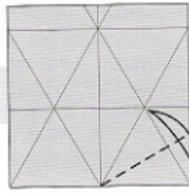
折り筋と折り筋を合わせて
折り筋をつける

7



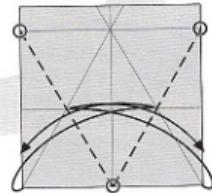
交点を通る折り筋をつける

6



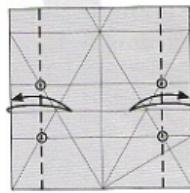
カドを交点に合わせて
折り筋をつける

5



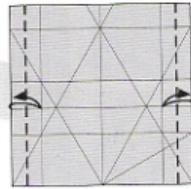
折り筋をつける

9



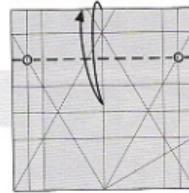
交点を通る折り筋をつける

10



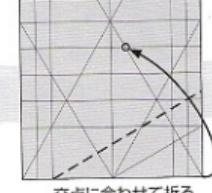
折り筋に縁を合わせて
折り筋をつける

11

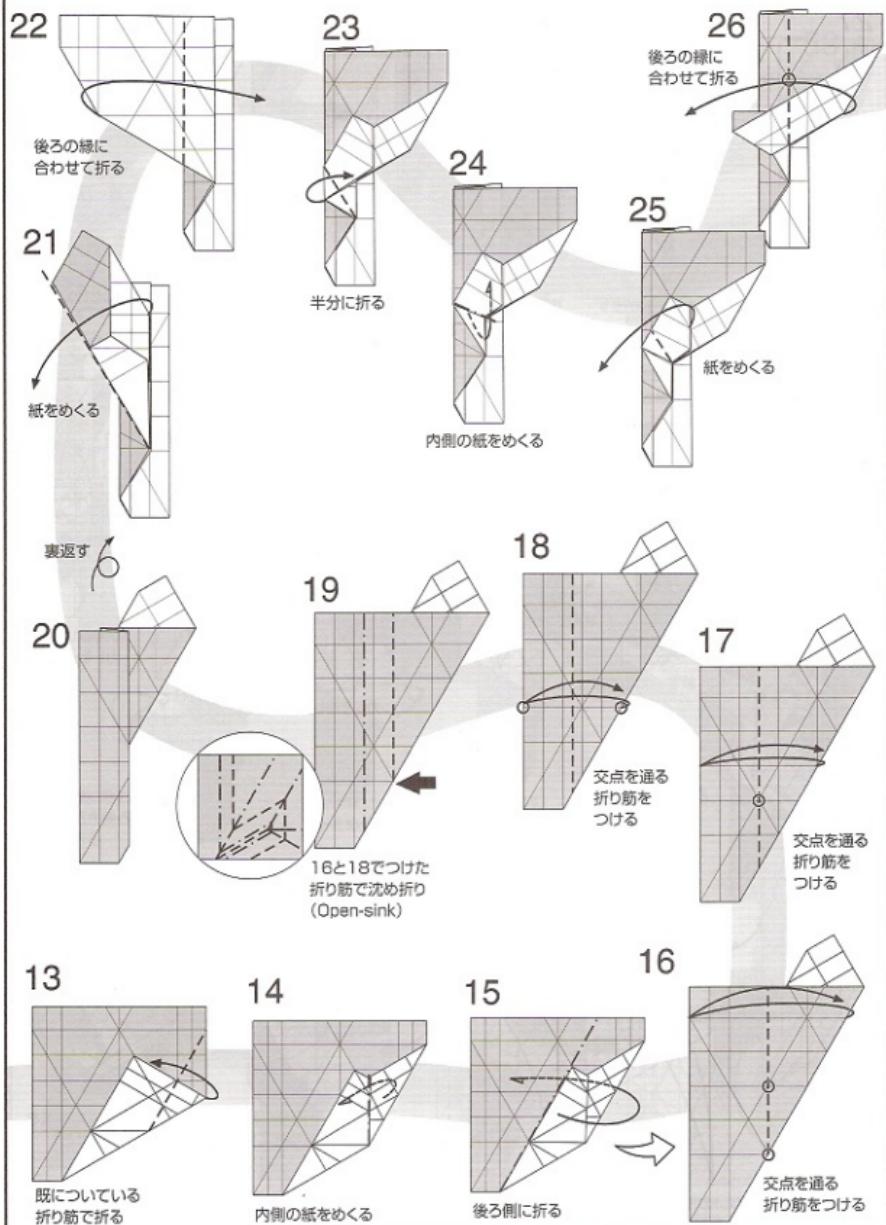


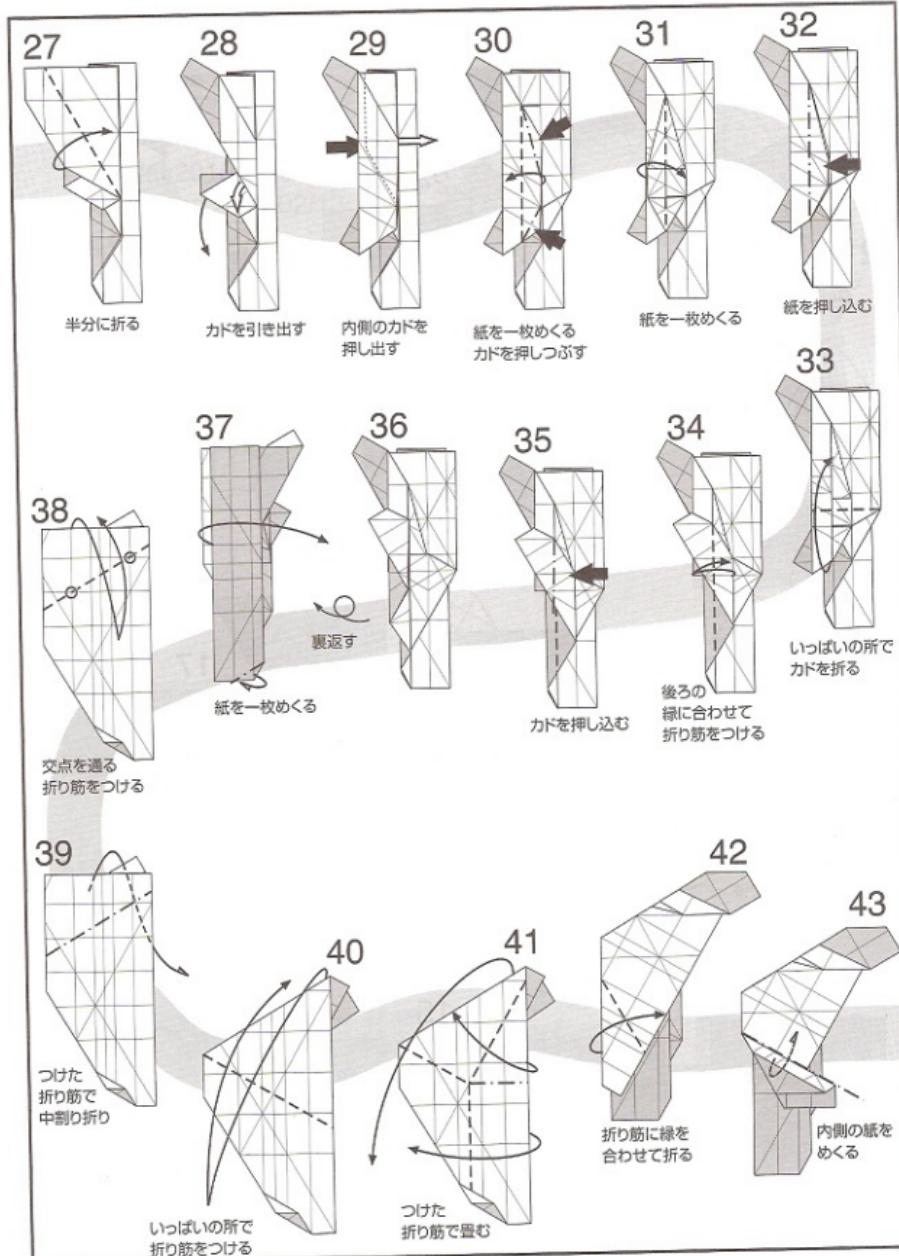
交点を通る折り筋をつける

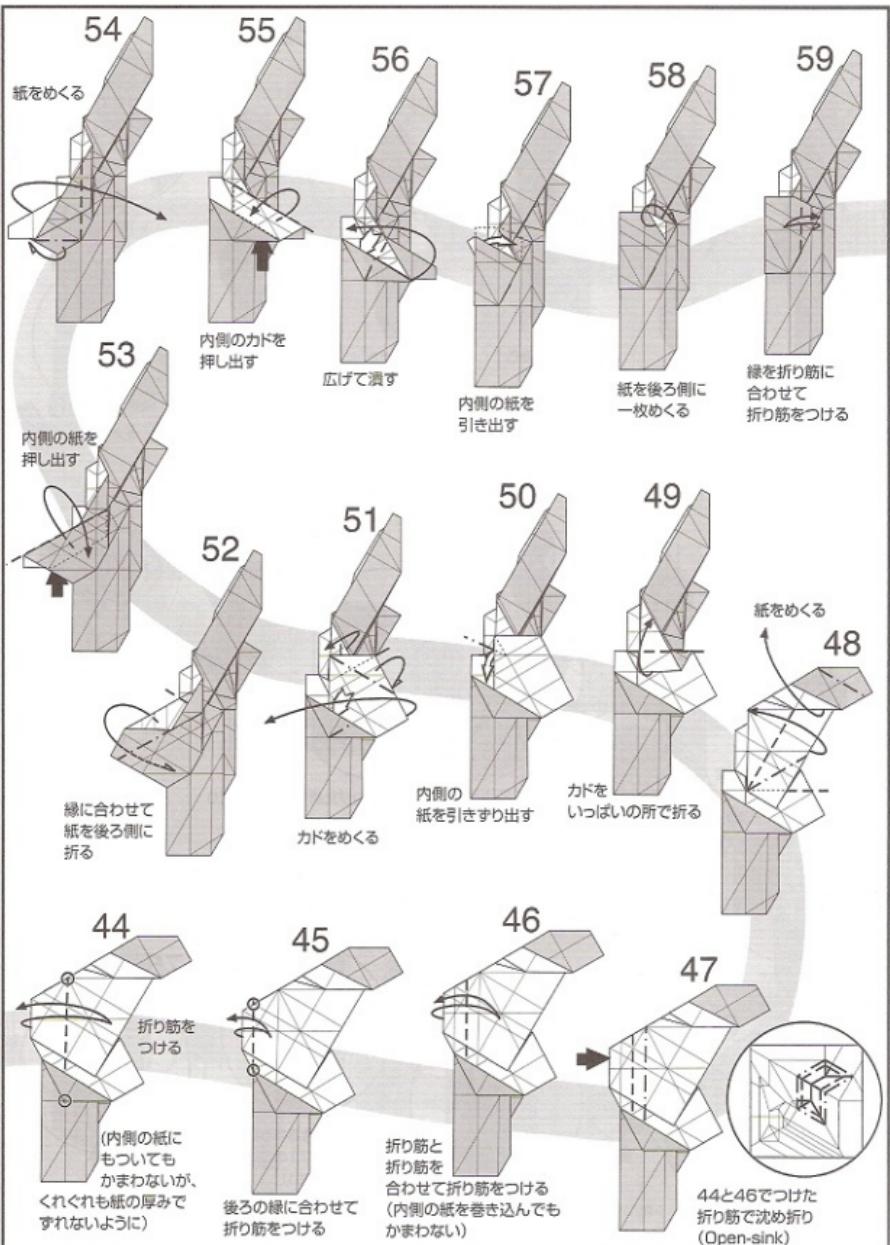
12

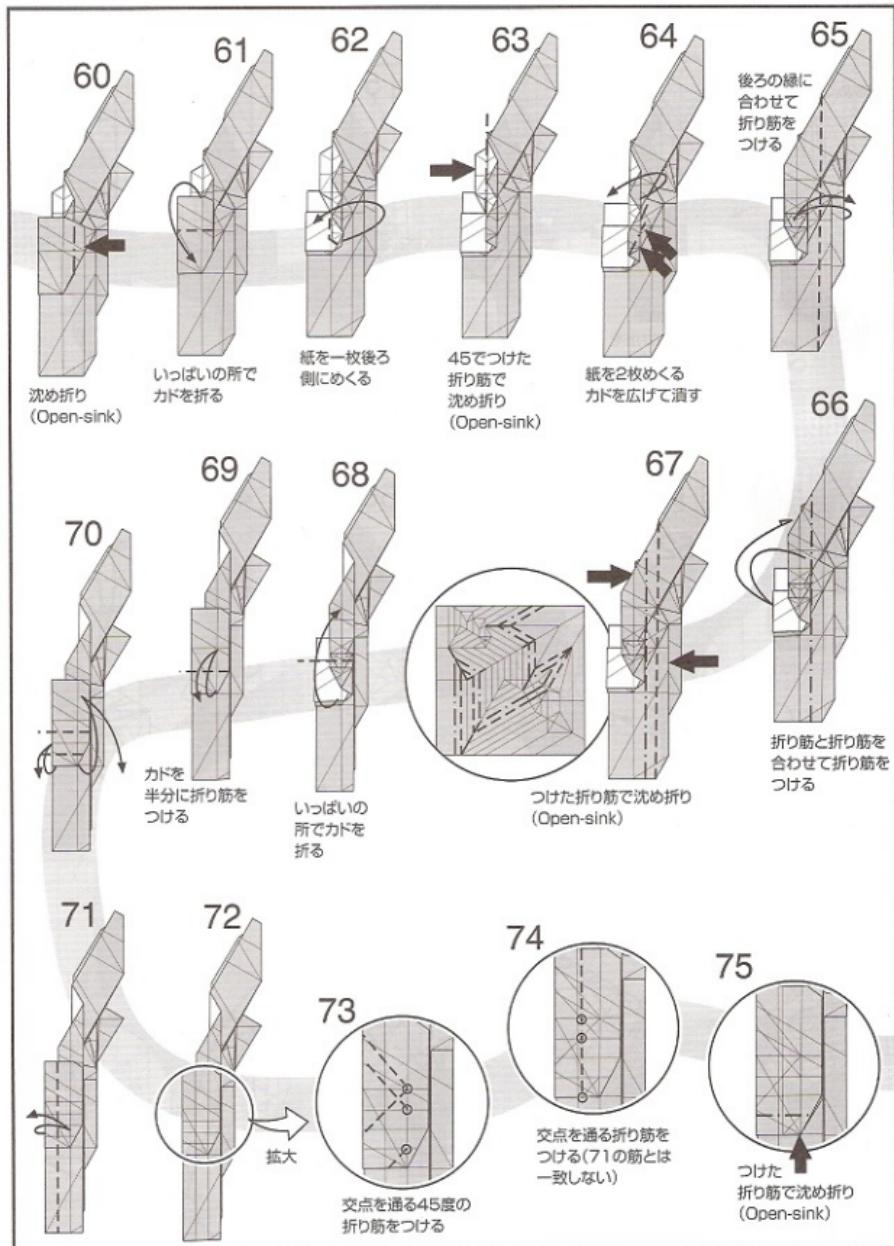


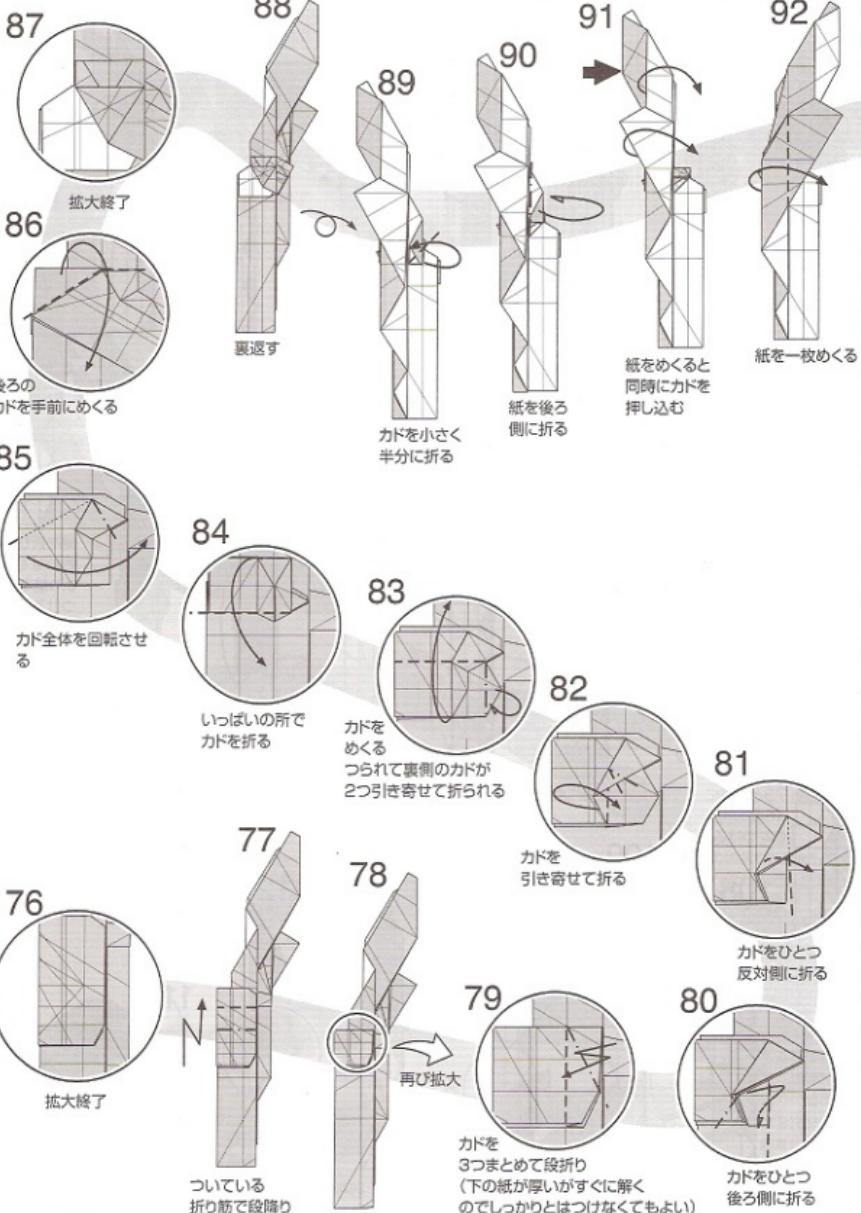
交点に合わせて折る

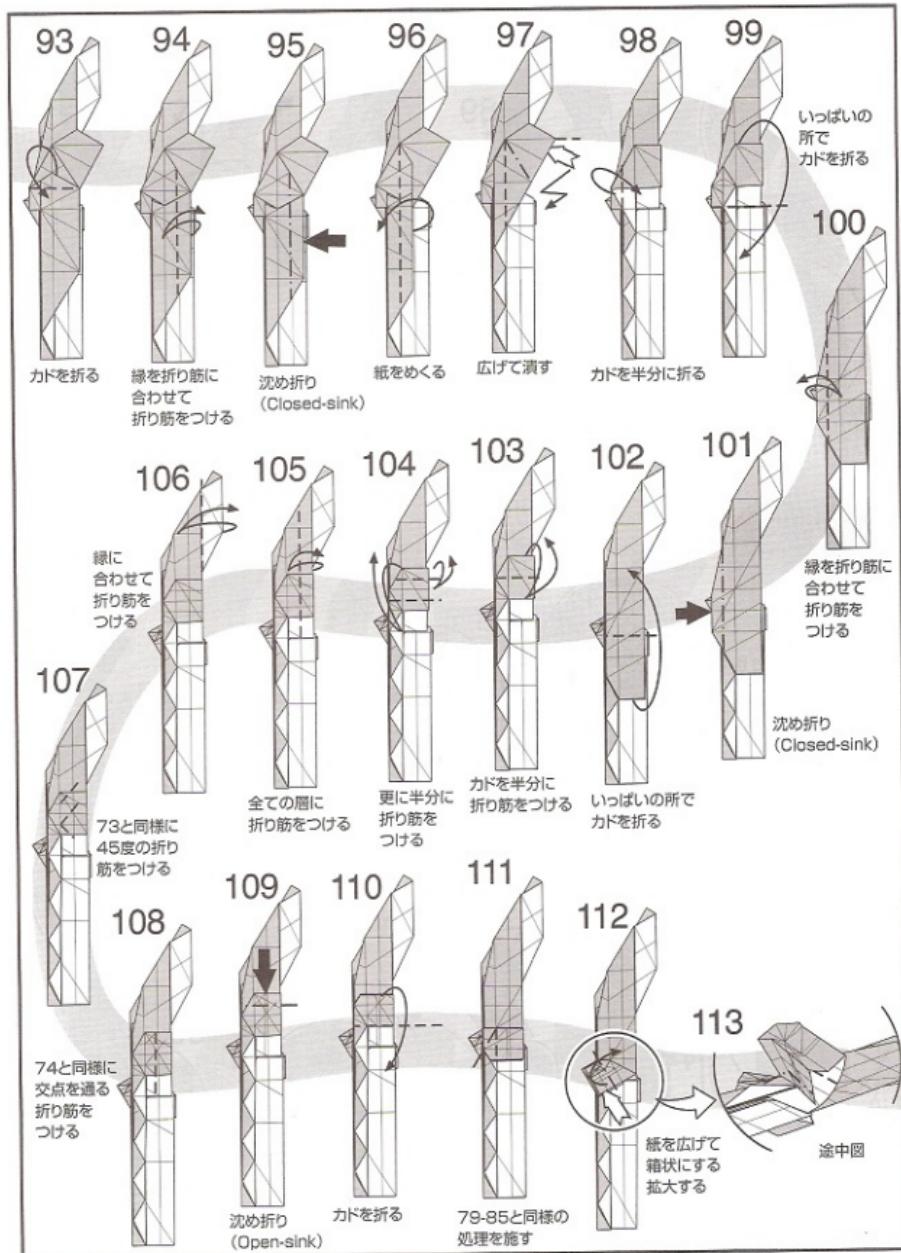


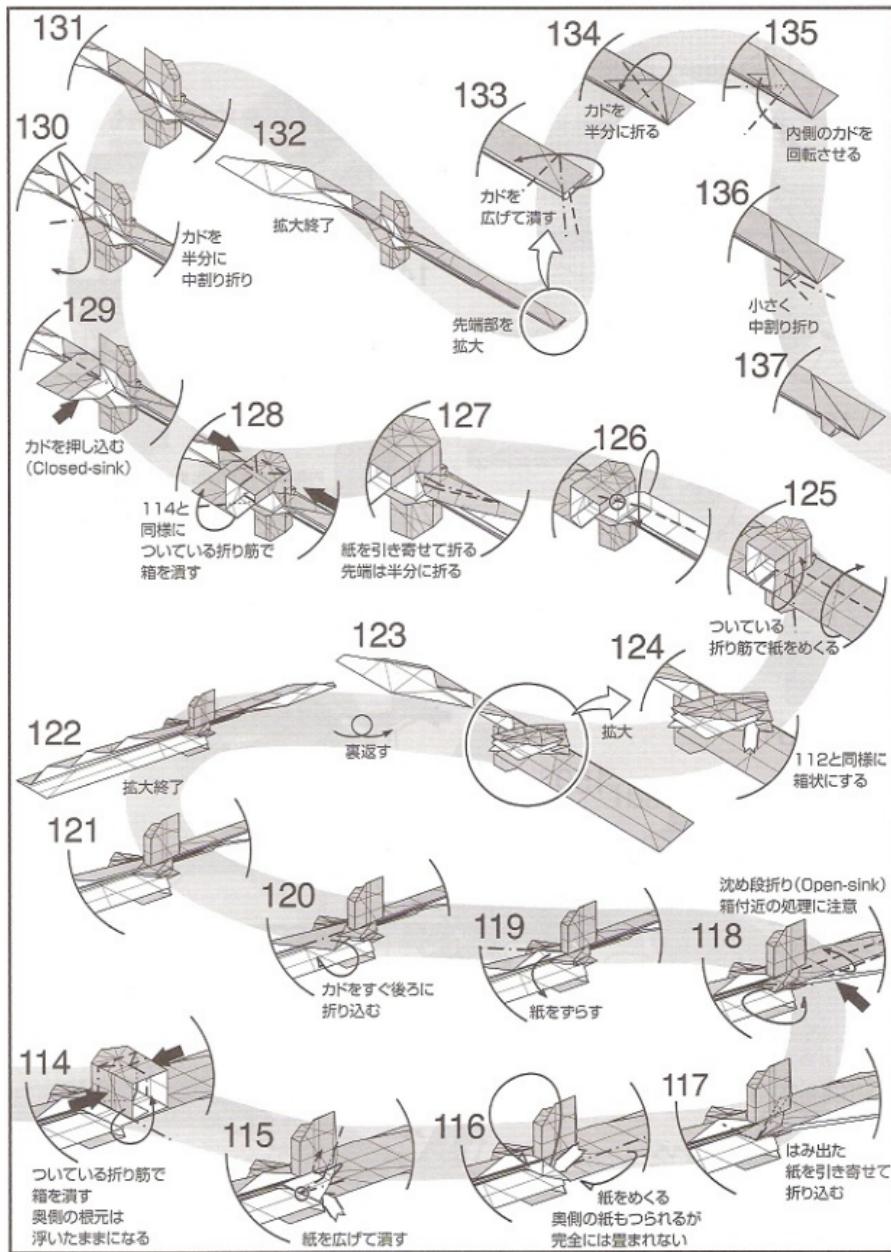


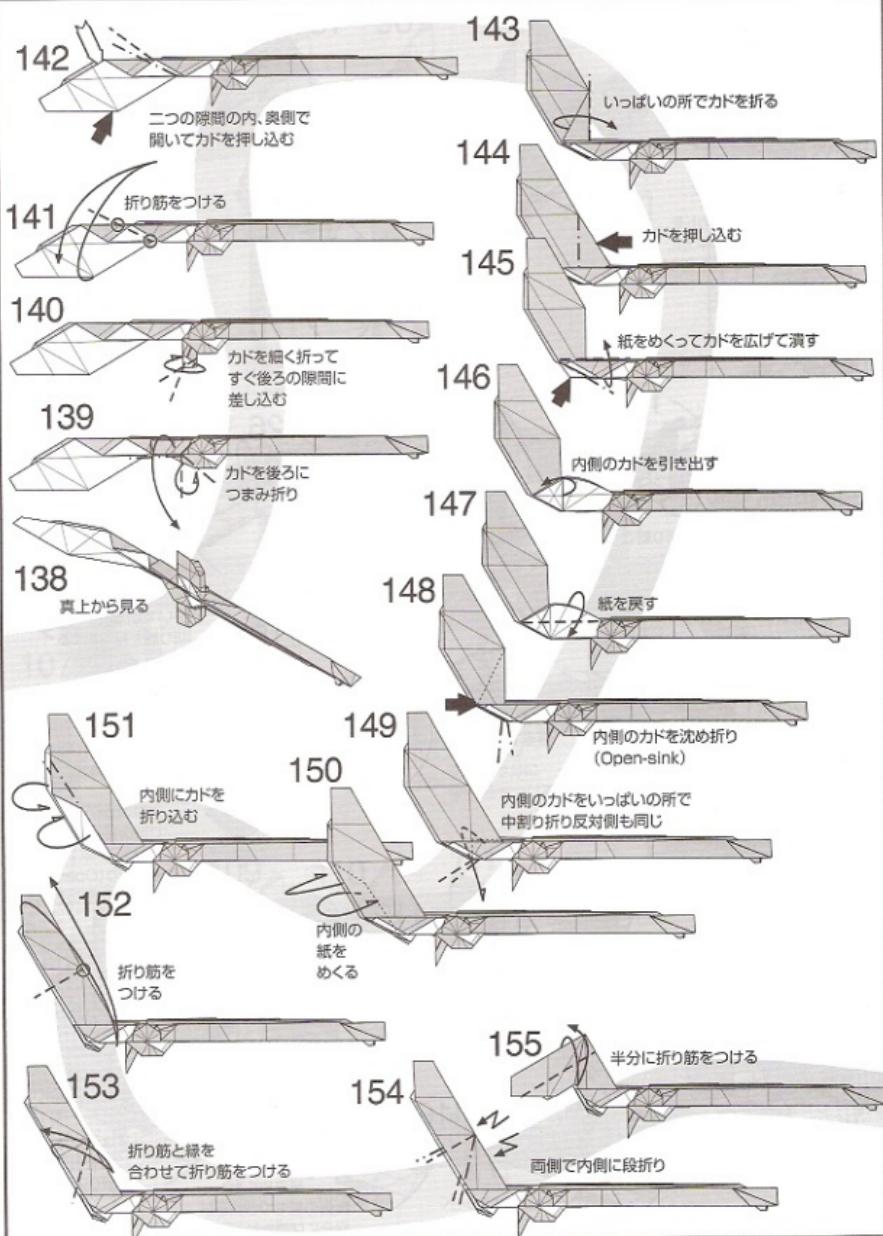


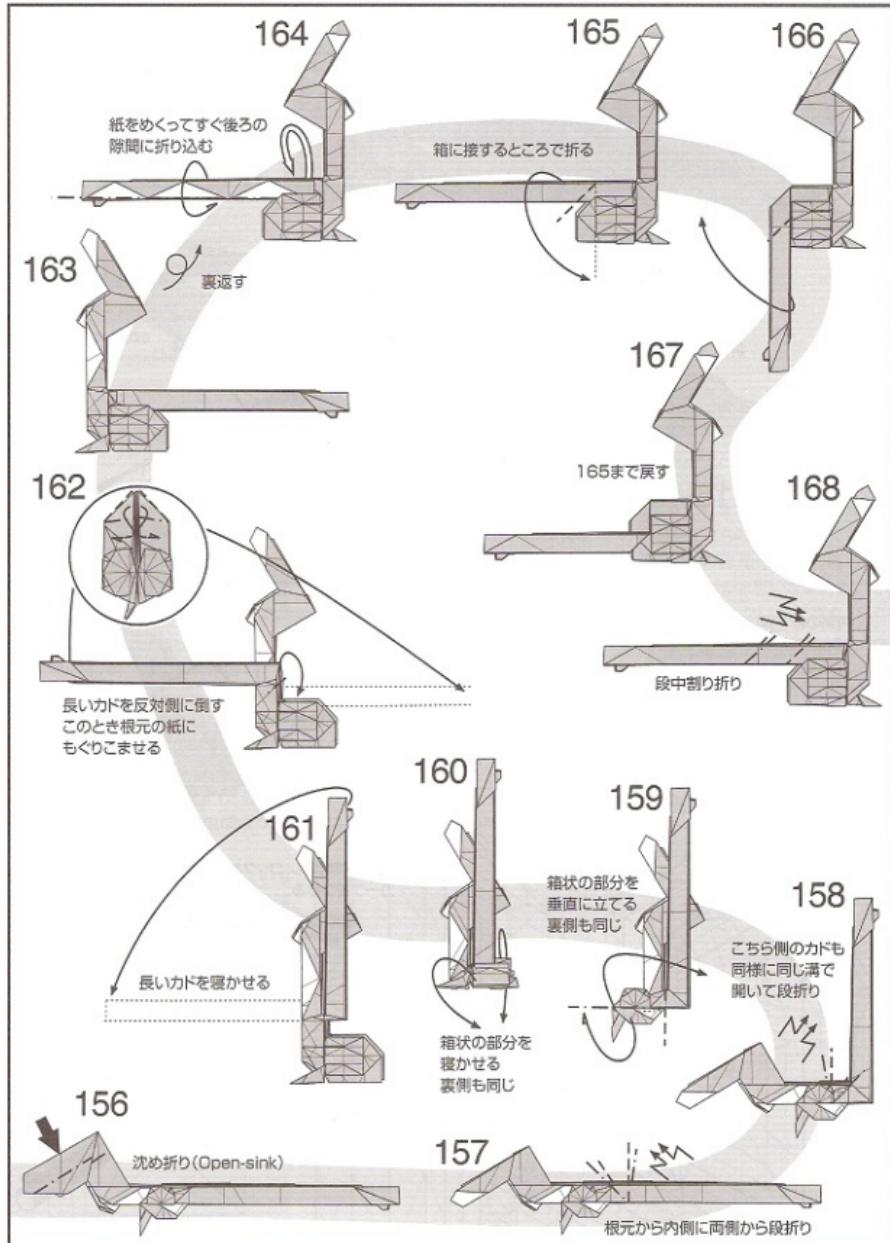


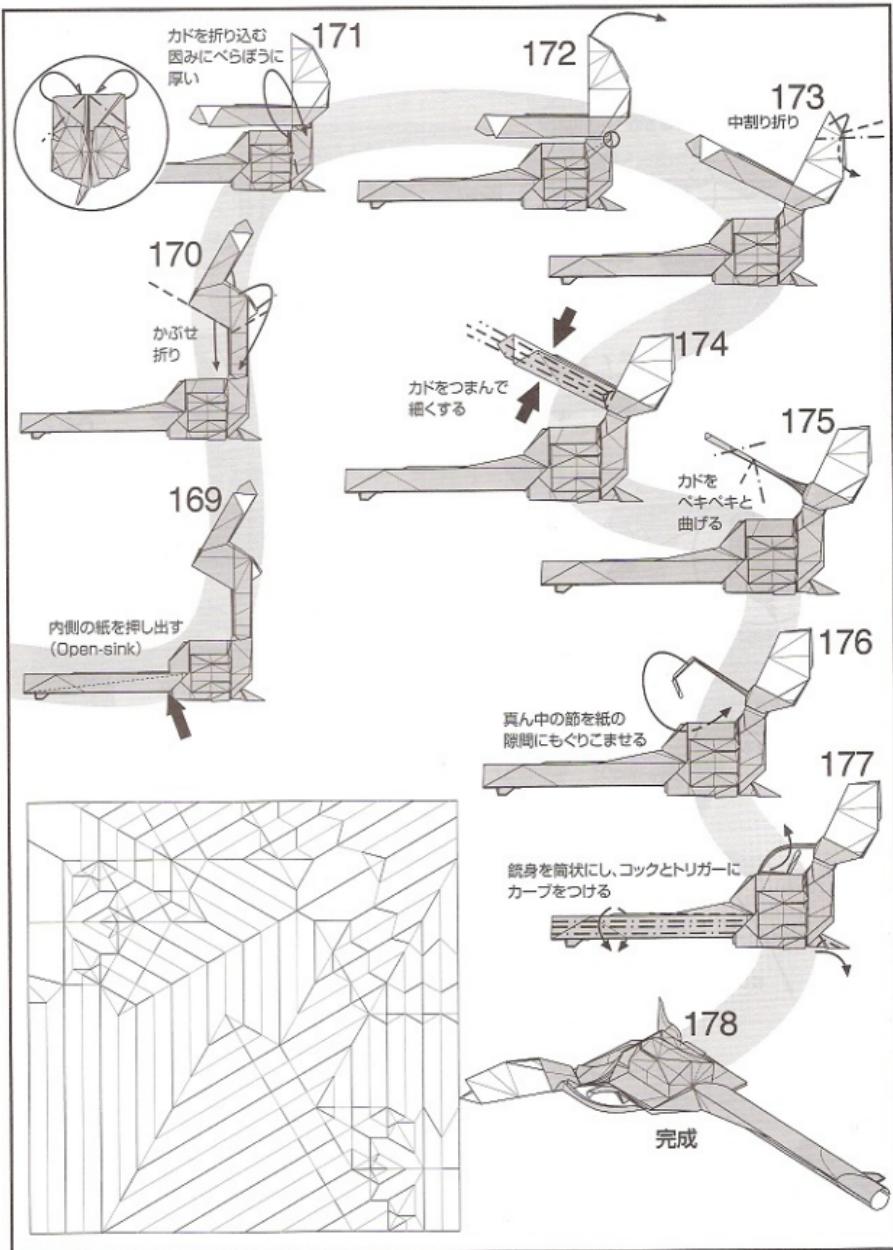












展開図折りに挑戦! Origami Pattern Challenge!

第70回

スピノサウルス

Spinosaurus

川畠文昭

Kawahata Fumiaki

Created : 2011/2/20

Paper Size : 38cmx38cm

Length : 26cm



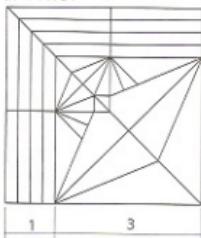
この作品の基本構成は吉野一生さんのスピノサウルスを参考にしてしています。

今改めてみても、吉野さんの折り紙の特徴の一つは、その紙の使用効率のよさにあるのではないかと思っています。足と尾の付け根部分にはその設計思想を活用させていただいている。

展開図折りにあたっては、折りやすい展開図と、折りにくい展開図があると思いますがこれは間違いなく後者でしょう。というのも、この作品の折線はその基準が、折工程の中で作られていくため、結果、展開図はとても奇妙なものになっています(さらに中央部には3D設計用の折線構成が埋めこまれている!?)。

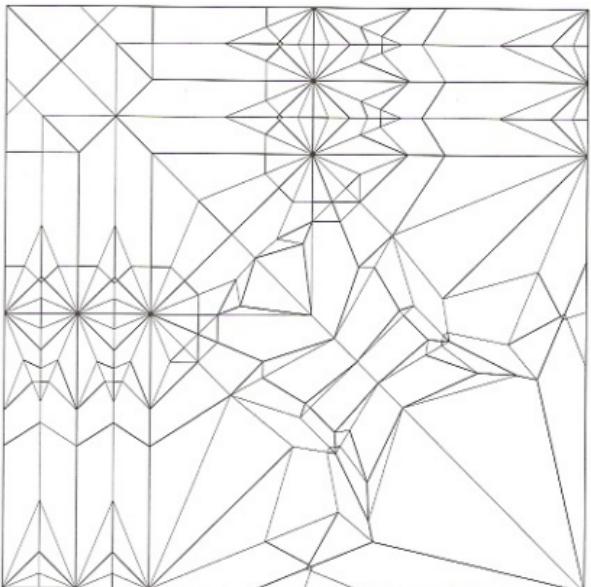
早く折図を描いて、工程にしたいものです。なお、この展開図は途中段階の絵になっていますがこの展開図で折ることができた皆さんには、その後の仕上げ工程は容易だと思います。

折り出し比率



展開図は正方形の基本部分とそれに付加されたL字型部分に分けられます。L字型部分は、頭部と手足の指表現に用いており、正方形部分がこの作品の基本構成になります。この展開図をもとに折ってみようという場合は、まず正方形部分のみを抜き出し、折線をコピー等でトレースして折ってみることをお勧めします。背びれの根元は3次元

的な折すじになっていますが、この折工程は伝承の風船の様にたたんでいた部分を最後に内側から膨らませる工程となります。また、正方形部分を半分の三角形にさらに分けてここだけで折ることも、この作品の構造理解に役立つのではないかと思います。22.5°にも15°にもなりきれない不思議な展開図を楽しんでください。



日本折紙学会（JOAS） 21期事業報告と22期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 21st Year
and Prospects in the 22nd Year

1) 会員・定期購読者

第21期は前期に比べ購読者・会員共に約5%の減少を示しました。会員は450名を維持しておりますが、共に減少するのは初めてのことです。専門誌の宿命ですが、日本折紙学会の活動理念には自負を持って取り組んでおり、それを支える理想的な経営規模は現状より高いレベルが必要です。収益事業の見直しなど今後検討を要するとしております。

21期会員の皆様へは、今期の配付資料として「展開図集2010」および津田良夫氏の折り図「インゴ」を送付させていただいております。22期につきましても日本折紙学会の活動理念にご理解をいただき引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2010年度も多くの皆様のご寄付をいたしております。改めにお礼申し上げます。「吉野一生基金」では8月にOrigamiUSA役員のマルシオ・ノグチ氏、3名の韓国人作家イ・チエグ氏、ジョン・キダン氏、チャン・ヨンギ氏を第16回折紙探偵団コンベンションに迎えることができました。5月には関西コンベンションでのアン・ラビン氏(USA)招待、11月には名古屋コンベンションでのマイケル・ラフォース氏(USA)招待に対して助成を行いました。2011年度は第17回折紙探偵団コンベンション、5月の第1回九州コンベンション、11月の名古屋コンベンションでの海外作家招待にも助成を行う方針です(地方コンベンションは半額助成)。派遺助成に間しましても引き続き募集しておりますのでご希望の方は事務局まで応募用紙をご請求下さい(募集要項は102号を参照下さい)。

吉野一生基金2010年度収支報告

(2011年2月19日)

残高合計	1,249,877円
寄付等入金合計	524,800円
支出	660,330円
(海外招待6名、招待に関わる雜費)	

3) 折紙探偵団コンベンション

2010年8月13～15日に第16回折紙探偵団コンベンションを東洋大学で開催いたし、盛会に行なうことができました。第17回折紙探偵団コンベンションも東洋大にて2011年8月12～14日開催の予定です。2010年度の地方コンベンションでは第11回関西コンベンション(神戸女学院大学)、第6回名古屋コンベンション(名古屋芸術大学)を開催することができました。残念ながら本誌124号でもお知らせしましたように2011年度の関西コンベンションは中止となりました。代わって5月21～22日に佐賀大学を会場にお借りして第1回折紙探偵団九州コンベンションを開催することになりました。折紙探偵団としては九州での初のコンベンションですが、2008年から3年間、評議員の川村みゆき氏を中心に九州友の会活動を続けており、おおいに盛り上がるものと期待しています。第7回名古屋コンベンションは例年どおり11月に開催を予定しています。世話役となっていたただいています友の会の皆様にはこの場を借りてよりお礼申し上げます。

4) その他の事業報告・計画

◇折り紙資料の収集整理を目的とした折紙図書館事業では収集整理した資料の蔵書目録約1,500点をウェブ公開いたしております。2010年度は図書利用が徐々ではありますがあえてきております。土曜日の13時からJOASホールで数時間、絶版などで手に入り難い折り図に取り組むとの出来る会員にとって貴重な機会です。書庫の整理等を進め、図書へのアクセスの利便性の向上を図っておりますので活発なご利用をお待ちいたしております。

◇折紙指導員制度につきましては、2010年度も数名の方に新たに資格認定をさせていただきました。本制度につきましてはさらに有用なものとなりますよう検討を継続いたします。

◇2010年度もギャラリーおりがみはうす隣に得た常設のスペース「JOASホール」の運

営を行ってまいりました。これまで東京友の会例会、布施知子氏、北條高史氏、神谷哲史氏、川崎敏和氏など、有名作家ならではの特徴ある講習会、更に2010年6月、12月には第8回、第9回折り紙の科学・数学・教育研究集会を開催しました。話題提供いただいたいる研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。折り紙の科学・数学・教育研究集会は第10回を2011年6月に計画しております。今後とも折り紙の様々な活動拠点として有効に運営してまいります。

◇2010年度は学術誌「折り紙の科学」に向

けての準備が整い、創刊号に向けた数編の論文の査読がほぼ完了し、2011年度に創刊号の発刊を予定しております。本誌への論文投稿をいただいた研究者の皆様に感謝申し上げます。

◇2008年10月に第1回が開催された「折り紙の著作権を考える国際会議」は、OrigamiUSAコンベンション期間中(2009年6月)に第2回会議が行われ、本誌123号でご報告いたしましたように2010年8月に第3回会議を16回折紙探偵団コンベンション第1日目の講演会との共同開催という形で開催いたしました。本会議では「折り紙の知的財産権検討基金」への多数のご寄付をいただき感謝申し上げます。本基金は今後のクローズアップでも活動報告しておりますとおり非常に有用な基金です(本誌121号「折紙三昧」に寄付要項を掲載しております)。JOASは今後も折り紙の知的財産権の研究を積極的に推進いたしますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

5) 総会・その他

◇日本折紙学会2010年度の会計報告につきましては、第17回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会においてご報告いたします。2011年6月30日までに第22期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内をご送付申し上げます。

◇日本折紙学会はその活動理念には自負を持って取り組んでおりますが、学術活動

や知的財産権検討など、今後ますます様々な関係者やメディアの理解を得て進めていく必要があります。そこで、東京大学名誉教授 三浦公亮氏(現 日本折紙学会顧問)を会長にお迎えし、会としての社会的な発信力を高めたいと考えております。そのために、新たに会長職を設定するよう規約の改訂を実施いたしました。8月の総会をご審議いただけます。

◇22期の評議員体制は、川畑文昭(6)、川村みゆき(7)、立石浩一(9)、津田良夫(6)、西川誠司(4)、三谷能(4)、川崎敏和(3)、北條高史(3)、羽鳥公士郎(2)、前川淳(2)に加え、東京大学助教 館知宏氏、折り紙作家 小松英夫氏を新任に予定し、合わせて12名で運営を進めてまいります。新任予定の両名は折り紙に関する実績は周知のことと存じますが、既に本会の種々業務に携わっており、本会のこれからを担う世代の代表となると考えます。評議員代表は引き続き西川誠司が務める予定です。今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます(カッコ内は勤続年数:最長任期9年)。

「折り紙の知的財産権検討基金」		2009~2010年度収支報告
(2011年3月10日)		
残高合計	18,150円
寄付等入金計	2009年度	10,000円(1名)
	2010年度	89,000円(36名)
支出	80,850円
内訳	①内容証明郵便作成費のJOAS負担分 ②「活動報告記事(26号)」内容の法務相談費用のJOAS負担分	

1) Membership and Subscribers

In the 21st year, we had a 5% decrease both in number of subscribers and in number of members. We do maintain about 450 members, but this much of decrease, we had experienced for the first time. Perhaps this is what every organization with this type of special orientation would pass by at least once, but it is true that we need to have more members and subscribers to run JOAS without anxiety. We will review what we have done and think of what we have to do in the future in this year.

To the 21st year members, we enclosed a booklet with "Crease Pattern Challenges 2010" and diagrams of Tsuda Yoshio's True Parrots. We expect all members and subscribers will renew for the 22nd year as well.

2) The Yoshino Issei Fund

We thank you for your continuing support of the Yoshino Fund for the year 2010. In August, 2010, we have invited Marcio Noguchi (USA), a Board Member of OrigamiUSA, and three Korean Folders, Lee Jae Gu, Jeong Ki Dam and Jang Yong Ik to the 16th Origami Tanteidan Convention with the Fund. We have also invited Anne LaVin (USA) to the Origami Tanteidan Kansai Convention in May, 2010, and Michael LaFosse (USA) to the Origami Tanteidan Nagoya Convention in November, 2010 with the partial aid from the Yoshino Fund.

As of February 19th, 2011, the Fund has 1,249,877 yen (contributions from members 524,800 yen, and expenses 660,330 yen (mainly invitation of the six origami creators)).

3) Origami Tanteidan Convention

We held the 16th Origami Tanteidan Convention at Toyo University on August 13-15, 2010. We had so many participants and the Convention was a success. We also had the 11th Kansai Convention at Kobe College, and the 6th Nagoya Convention at Nagoya University of Arts. As we have already announced, we will NOT have the Origami Tanteidan Kansai Convention in 2011, but, we will have the 1st Origami Tanteidan Kyushu Convention at Saga University on May 21st-22nd. This is the first origami Tanteidan Convention in the far western part of Japan, but our Board member Kawamura Miyuki have been leading the Origami Tanteidan Kyushu Readers' Group since 2008, so we are ready now. As for the 7th Nagoya Convention, we plan to have it in November as usual. We thank you for cooperations of folders of the world, and JOAS thank staff members of these conventions.

4) Other Prospects

The Origami Library started making the list of materials in the archive there open on the web in April, 2007, and we do have more than 1,500 books and articles. The number of users are gradually increasing. The books can be viewed in the JOAS Hall in Saturday afternoon, and this is a valuable chance for folders to see rare and precious diagrams. Please contact JOAS for its use. We had licensed a few people as new JOAS Origami Instructors in 2010. We hope to have this license become more beneficial for the awardees in the near future.

The studio space we gained in 2005, JOAS Hall, are being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, occasional origami classes by Fuse Tomoko, Hojo Takashi, Kamiya Satoshi, Kawasaki Toshikazu, and so on. We also had the 8th and 9th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education there in June and December, 2010. The 10th workshop will be held in June, 2011. We almost finished reviewing articles for our first academic magazine Origami Sciences, and it is to be published in 2011. We thank contributors for their serious interest in the magazine.

The Origami Copyright International Conference, the 1st one of which was held in Japan in October, 2008, had its 2nd meeting during the 2009 OrigamiUSA Annual Convention in June, and then the 3rd meeting on the 1st day of the 16th Origami Tanteidan Convention in August, 2010. We founded the Fund for the Intellectual Rights and Copyrights on Origami, and we had contribution from many people. We JOAS plan to pursue the study on this issue continuously, and we thank contributors for their thought-provoking opinions and, of course, for their contributions. The fund is currently being used for the copyright issues we JOAS are directly facing with, along with NOA.

5) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2010 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 17th Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2011.

JOAS have to deepen the understanding on academic, intellectual, and artistic aspects of origami to the general public through media and cooperation of many people. To facilitate this, we are planning to have Dr. Miura Koryo (Professor Emeritus, Tokyo University) as our official Chair. The position Chair, which will be newly placed, will be the topic of the General Meeting in August.

The Board members for the 22nd year will be: Kawahata Fumiaki (6), Kawamura Miyuki (7), Tateishi Koichi (9), Tsuda Yoshio (6), Nishikawa Seiji (4), Mitani Jun (4), Kawasaki Toshikazu (3), Hojo Takashi (3), Hatori Koshiro (2), Maekawa Jun (2), Tachi Tomohiro (1), and Komatsu Hideo (1) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). The chair of the Board will be Nishikawa Seiji.



Rabbit Ear

つまみおり

Information

◆研究誌『折り紙の科学』(Science of Origami)創刊

前川 淳

会員からの投稿論文を中心とした研究誌『折り紙の科学』(Science of Origami)が創刊されます。額面価格は2000円です。小冊子なので安くはありませんが、ほかにはない情報が詰まっています。購入方法は、WEB(<http://www.origami.gr.jp/>)で案内します。以下に、創刊の辞を引用します。

折り紙の研究は、近年、飛躍的な発展をしています。関連する分野は、歴史、民俗、教育、数学、宇宙工学、ロボット工学、建築、マイクロ・ナノ技術、医学、コンピュータサイエンスなど、多岐にわたります。

上記に挙げたもの以外にも、意外なつながりで折り紙に関わる研究もあるでしょう。それらの研究の多くは、高度な専門性が土台になっていますが、同時に、広い裾野を持っており、それが、折り紙という分野のきわだった特徴となっています。

これらの研究を発表する場として、日本折紙学会は、会の機関誌『折紙探

偵団』を補うメディアが必要であると考えました。機関誌『折紙探偵団』は、主に造形としての折り紙を扱うのですが、それとは異なり、折り紙に関するものであれば、あらゆる研究を対象とする、研究誌の必要性です。会の運営に関わる者、また、折り紙を研究する者にとって、この企画は、胸が踊るものであると同時に、ある種の使命でもあります。

その企画が実現して、今回刊行するはごととなったのが、この『折り紙の科学』の第一号です。誌面は、日本折紙学会の会員から寄せられる、論文(原著論文)、解説、討論、講座、エッセイなどからなります。

詳しい寄稿方法等は、WEBにある要項(<http://www.origami.gr.jp/OSME/CallForPapers.pdf>)をごらんください。

創刊号は、50ページ足らずという小冊子になりましたが、多彩な論文が集まりました。内容は、いわゆる理数系

3月11日午後に発生した、東北地方太平洋沖地震の被害に遭われた方々へ心からお見舞い申し上げますとともに、事態の改善と、被災された方が一刻も早くお元気になりますようにお祈り申し上げます。

日本折紙学会

■雑誌「折紙探偵団」発送について。

現在、震災の影響により日本郵便は東京から北海道、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、茨城県へのゆうメールの引き受けを停止しております。大変申し訳ありませんが、引き受けが再開されるまで、停止地域への発送を延期させて頂きます。

◆おりかみはうすオンラインショップでは、東北地方太平洋沖地震の被災地支援として、売上から10%全額を、被災地への義援金として寄付することになりました。商品の価格は、平常通りで、おりかみ高品質を購入することで自体が支援となる仕組みです。購買者の金額的負担は増えません。

のものとなっていますが、研究誌の題名の『折り紙の科学』の「科学」は、自然科学のみを意味するのではなく、人文科学的な研究も含んでいますので、これからは、その方面的研究も期待しています。

刊行は不定期になりますが、小さな種が、大きな木となり、折り紙の世界を広げていくことを願っています。

折り紙の科学

Science of Origami

2011
Vol. 1 No. 1
2011 / 04 / 01日本折紙学会
Japan Origami Academic Society

◆21期会員特別配布資料

日本折紙学会会員特別配布資料として、今号のカラーページで紹介している津田良夫氏作の「インコ」の折り図と、同じくカラーページで紹介している26名の作家による作品の「展開図に挑戦」が配布されます。特に今回、展開図折りは過去に無い豪華な内容で、会員の皆様にはどちらも興味深く身中の濃い資料となっています。

現在購読のみ(年間3800円)の方で、配布物を希望される場合は、購読料と年会費の差額である4600円をお支払いいただければ、21期会員登録の上、特別配布物を発送させて頂きます。

なお以上の措置は3月末までとなります。4月からは第22期となるため、21期

の資料はその残部を22期会員に限ってお分けするかたちとなりますのでご注意の上、ご了承ください。

振込先

郵便振替口座 00170-7-260699

加入者名 日本折紙学会

詳細はメールか電話でお問い合わせください。

◆第16回折紙探偵団コンベンション第2回韓国折紙コンベンション

今年の折紙探偵団コンベンションは例年通り東洋大学白山キャンパスで開催予定であるが、会場確保が年々難しくなっており、場合によっては会場が変更されることもある。

第2回韓国折紙協会主催による韓国折紙コンベンションが昨年と同じように、折紙探偵団コンベンションの翌週の週末に開催される。

開催日時は、例年通りで、お盆の時期の8月12日(金)、13日(土)、14日(日)の予定であるが、場合によっては13、14日の2日間開催になることも考えられる。3日間開催のスケジュールは例年通り。

12日、日本折紙学会総会(午前中)。午後からは特別講演会が開かれる。海外からのスペシャルゲストによる講演をはじめ、未定だが折り紙の科学の講演も考えられている。折り紙に関する話題を広く扱った内容となるだろう。

13日(土)、14日(日)は折紙作家や愛好家による新作を中心とした盛りだくさんの折り紙教室大会。興味深い講習が目白押し。探偵団コンベンションならではの醍醐味。是非この機会に味わっていただきたい。シンプルな作品から超難解作品まで参加者を満足させる幅広さである。また、海外からのゲストの教室も興味深いものがあるだろう。

昨年に続き折紙指導員資格保持者

を対象とした、折り紙についてより深く知るための教室も開かれる予定である。指導員資格者でなくても興味をお持ちの方は参加ができる。これから指導員になろうと考えている方は是非参加して欲しい。

■第2回韓国折紙コンベンションは19(金)、20(土)、21(日)にソウルで開催される。昨年は第1回ということもあって、定員100名で開催であったが、今年は定員150名(先着順)とな

る。昨年は日本からの参加者の他、折紙探偵団コンベンションに海外から参加したアメリカ、イギリス等からの参加者もいて、韓国では珍しい国際大会となった。

会場はSOOKMYUNG 女子大学校(Sookmyung Women's University)のキャンパス。

また、例年韓国折紙協会が10月に開催していた、折紙作品展をこのコンベンションの時期に開催することになった。この作品展では、賞金も出る折紙作品コンテストも開かれる。

日本からの大会参加とコンテスト参加も求めている。

第1回折紙探偵団九州コンベンション 受付始まる

前号でもお知らせした折紙探偵団九州コンベンションの受付が始まった。会場は佐賀大学。海外からのスペシャルゲストはアメリカからブライアン・チャン氏。

細部については同封の案内書、申込書をご覧ください。皆さんの参加をお待ちしています。

日程=2011年5月21日(土)・22日(日)

場所=佐賀大学文化教育学部

佐賀市本庄町1 本庄キャンパス

参加費=大人4000円

学生(小・中・高・専門・大学)3000円

(親子割引も実施予定)

懇親会

5月21日(土)希望者のみ

参加費=3000~4000円(調整中)

◆折紙探偵団東海友の会折り紙作品展

川畠文昭

来る5月6日~11日、名古屋芸術大学にて、東海友の会メンバーによる作品展示を行います。東海友の会では、同大学をお借りして、名古屋コンベンションや月例会を開催していますが、その縁で同大学で開催されている生涯学習講座「やさしい創作折紙」の講師を、数年前より東海友の会メンバーが務める等、相互関係を深めています。そういった中、今回の展示は、東海友の会顧問である名古屋芸術大学三枝優先生のお力添えで友の会メンバーによる生涯学習講座参加者の成果発表の場として実現したもので、昨年に引き2回目の開催となります。東海友の会では毎年名古屋コンベンションに独自のテーマを決めて創作展示を

行う等、活発な創作活動を行っていますが、今回多くの作品を一堂に会して見ることができる機会でもあります。新作発表の場としても良い機会であることから、メンバー一同よい展示にしようと準備を進めています。

展示ギャラリーは約16m×10mの大きさがあり、芸術大学ならではの展示ギャラリーも一見の価値あり。また、大学構内の展示であることから、多くの抽象作品の展示も行います。入場は無料、どなたでも入場できますので、お近くにお越しの際はぜひご来場ください。詳細は今後、東海友の会HPにも随時アップしていく予定です。



この作品はエリック・ショウゼンさんの作品へのオマージュです

◆折紙図書館に通うようになったのは

石田敦之(50歳 会社員 東京都在住)

2年前に『本格折り紙一入門から上級まで 前川淳氏著』を見て同氏が創作された「立ち姿の鶴」と「孔雀」を6ヶ月かけて完成させて以来、コンプレックス系折紙の魅力にとりつかれています。修行が足りませんので、1つの作品完成に3~4か月かかることが多いです。折紙図書館に通うようになったのは、小松英夫氏のWEBで、同氏が創作された「馬(折り図無し・展開図有り)」を見て、この上品で美しい馬を折れるようになりたいと思ったからです。

WEBを見てすぐ、学会の公式サイトで、折り図が掲載されている『折紙探偵団』60号は絶版のため入手できないが折紙図書館で見ることを知りました。しかし、私の技量レベルでは恥ずかしくて、折紙の神様(達人)が集結されている折紙図書館(学会事務局内に設置)に入る勇気がありませんでした。また、折り図コピー不可のルールは、折り手順の修得に面倒と思いました。このため、展開図

折りに挑戦しましたが、我流で折りまとめた最終形は、前後の脚の上部の形が異なるものになりました。

どうしても諦めることが出来ませんでしたので、勇気を出して折紙図書館に行くことにしました。懸念していた恥ずかしさは、対応いただいた方から「技量レベルに関係なく多くの愛好家にこの図書館を利用してもらいたい」と優しくお話をいたので、どこかに吹き飛びました。また、面倒と思っていた折り手順習得は、大好きな作品を折れるようになるための修行と前向きに考えるようになりました。

これからも、この図書館を出来るだけ利用して、絶版の『折紙探偵団』や他の図書館で置いてない洋書等を見せていただき、自分の好みの作品を探しその折り手順を修得していくと思っています。

折紙図書館

場所=日本折紙学会事務局
東京都文京区白1-33-8-217
JOASホール内

◆読者プレゼント当選者

読者プレゼントに多くの方から応募を頂きました。感想文を書かれている方も多い、挨拶団マガジンへの关心の高さに驚かされました。エリック・ジョゼルゼー折り紙のマジシャンを希望された方が圧倒的でした。当以下の方々が当選されました。(敬称略)

■エリック・ジョゼルゼー 折り紙のマジシャン
○岩佐悠平(京都府) ○川井千世(埼玉県)
■ユニット折り紙ワンドーランド
○池上善子(大阪府) ○阿部道子(東京都)
○車田健世(福島県)
■立体ふしぎ折り紙

東京友の会※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/ 参加費=大人500円
(中学生以下300円) / 講習会=14:00~
16:00 / 研究会=16:00~

●4月2日(土) / 演講:室屋洋輔 / 作品:未定
●5月7日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

静岡友の会※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増築ビル3F / 参加費=大人500円(中学生以下は200円) / 講習=10:30~12:00 / 講習・情報交換=13:00~15:00

●4月3日(日) / 演講:山梨明子 / 作品:大統領の玉桜(作:川崎敏和)

東海友の会※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟

- 柳田 仁(静岡県) ○倉料明尚(東京都)
- 草木 宏(東京都)
- あいざい折り草本修三ワールド
○佐野有美(奈良県) ○素 敏江(千葉県)
○佐々木祐一(山梨県)
- 神谷流創作折り紙による挑戦
○塙田甲斐(山口県) ○吉武勇人(福岡県)
- かわいい折り紙ドールハウス
○浅山夏星(埼玉県) ○木戸咲代(兵庫県)
○鈴木雅江(埼玉県) ○初音みね子(埼玉県)
○佐藤由里子(鹿児島県)
- ヤマアリタニおり
○佐野香代子(静岡県) ○浅山千夏子(埼玉県)
○松井 麻(神奈川県) ○宮本宙也(東京都)

303号室 / 参加費=大人200円(中学生以下は100円) / 時間=13:00~16:30

●4月16日(土) / 講師:未定 / 作品:未定
●5月21日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

関西友の会※折り紙は各自持参

会場=高槻市立総合市民交流センター第一会議室 / 参加費=500円 / 時間=10:00~16:00

●6月19日(日) / 講師:未定 / 作品:未定

九州友の会※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階第3研修室B / 参加費=500円(中学生以下は100円) / 時間=13:00~16:00

●4月24日(日) / 演講:浜田勇 / 作品:三角形からなるカブト

利用資格=日本折紙学会会員
特徴=内外の折り紙に関する書籍、定期刊行物を幅広く収集しています。

利用日=第1週を除く毎週土曜日13:00~17:00(臨時に変更になります)

利用手段あらかじめ、メールまたは電話にて、日本折紙学会事務局まで連絡要。

e-mail(専用アドレス):library@origami.gr.jp

電話:03-5684-6080

利用形態=資料の貸し出し、コピーはできません。

資料を閲覧しながら、折り紙を折ったり、メモを取ることはできます。

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

3月に開かれる予定であった「知子の部屋」ですが、東北地方太平洋沖地震の影響で中止となりましたが、代替えの教室が4月16日に開かれることになりました。しかし、今後のこととは予想ができませんので、突然予定が変わることがあります。ご了承ください。

4月16日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00

6月18日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00

アットホームな空間充実の教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールInfo@origamihouse.jp宛でお願いします。

編集後記

■考えられないような未曾有の災害。■東京でも長い人生の中で初めて体験する程の揺れであった。私は今、何ができるか、少しでも役に立つことができればと思うばかり。■なきれない。

■国連の事務総長の言葉が嬉しい。■「日本は世界中の困っている人を援助してきた最も強力な援助国の一つだ」と称えた。(や)

日本折紙学会公式HP
折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2011年3月25日発行 第21巻6号 通巻126号

発行所 / 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 西川誠司

編集人 / 山口 真

編集スタッフ / 神谷哲史、勝田恭平

デザイン / オリがみはうす

翻訳 / 立石浩一

発売元 / オリがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

広告のコーナー

I  ORIGAMI

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



エリック・ジョワゼル 一折り紙のマジシャン

山口 真 著/立石浩一 訳

85判ハードカバー

全144頁・カラー80頁

価格 4,800円 / 送料 420円

10月に逝去された、フランスの折り紙作家エリック・ジョワゼル氏の作品写真集。120点を超える作品写真を始め、今まで語られなかった作品制作秘話なども掲載。

書籍名/著者/編者	価格(税込)	送料	内容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 著/立石浩一 訳	4,000円		B5判/全228頁/カラーログ4頁/19作品収録 超豪華系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 著/立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラーログ4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畠文昭・西川誠司 共著 山口 真 著	3,100円		B5判/全196頁/カラーログ4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で躍進した作品の記録。
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 著/立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラーログ4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番複雑らしい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施義子 著 山口 真 著	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラーワ 写真紹介 作者がユニットに出会い前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川端文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラーログ4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第16回折紙国際コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作47作品を収録
第15回折紙国際コンベンション 折り図集vol.15 日本折紙学会 編	—		—
第11回折紙国際コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回折紙国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回～第9回及び第12回～第15回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には冊数代が含まれています

商品名	送料	内容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで手は手首 ■数に限りがありますので、ご注文の際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)	1~2セット 440円	恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図
「折紙探偵団」 専用ファイル 750円(税込)	1冊250円 2冊350円 3冊470円	変形B5判 / 激押し(緑)ロゴ入り 雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊) と、会員特別配布物が収録可能! ※变形部以外で発送しております(書籍とは別発送) 集料には冊数代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail : info@origamihouse.jp

月~金 12時~15時 士・日・祝 10時~18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。

<http://origamihouse.store-web.net/>

※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

ORIGAMI Tシャツ

2,300円(税込)

送料:2着まで500円



左胸位置に「折紙・折鶴」のロゴが入ったTシャツ。背面には大きくて「ORIGAMI」という文字が入っています。色は黒のみです。S, M, L, XL, XL各サイズあります。

書籍の送料

書籍 1冊の送料は420円

書籍 2冊の送料は530円

上記以外の場合はお問い合わせください。書籍と紙製品は別途発送となります

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上お注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

郵便振替用紙の構造申請込みとは別の用紙です。くれぐれもご注意ください。

郵便振替用紙は郵便局提出用のものをご利用ください。

現金書留の場合は左記の信封へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

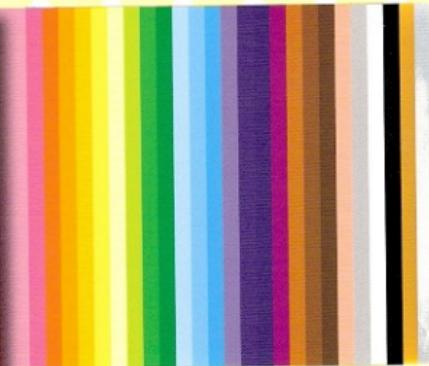
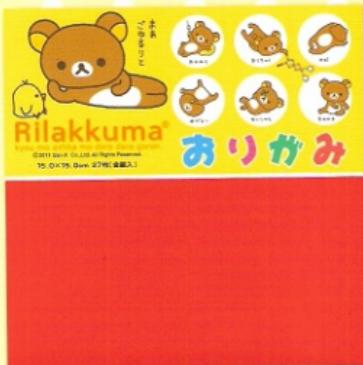
■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限 2011年6月25日

Rilakkuma®

¥100
(税抜き)

人気のリラックマがおりがみとちよがみになって新登場！



おりがみリラックマ (15.0cm) 27枚入 (金銀入)



ちよがみリラックマ (15.0cm) 8枚入 (2色調)

©2011 San-X Co.,Ltd. All Rights Reserved.

 株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店／名古屋営業所／福岡出張所／札幌出張所